

社会開発協力部報告書  
社会開発協力部

インドネシア共和国  
ソロ身体障害者  
リハビリテーションセンタープロジェクト  
事前調査団報告書

1994年6月

国際協力事業団  
社会開発協力部

インドネシア共和国ソロ身体障害者リハビリテーションセンタープロジェクト事前調査団報告書

1994年6月



108

213

SCF


LIBRARY

社協一

J R

94 - 018



JICA LIBRARY  
  
1122877(2)

28585



インドネシア共和国  
ソロ身体障害者  
リハビリテーションセンタープロジェクト  
事前調査団報告書

1994年6月

国際協力事業団  
社会開発協力部



## 序 文

インドネシア国は国家開発計画において、開発成果の公正な配分、十分な経済成長、健全かつ活気のある社会の安定、の3原則を有している。これに対応しJICAでは対インドネシア援助実施指針の主要目標の一項として「社会的安定を目指した社会福祉および生活の質の向上」を設定している。

インドネシアの社会福祉は「日常生活する中で不利な条件にある人々が社会の中で役割を持ち、社会の発展に貢献する機会を与えられること」を目標に実施されており、障害者に対するリハビリテーションにおいても、生産活動に携わることにより社会的役割を持つことを主眼としている。

中部ジャワにあるソロ身体障害者リハビリテーションセンターは、独立戦争中(1945-49)の1946年の設立以来、インドネシアにおけるリハビリテーション施策の中心的、指導的役割を果たしてきた。しかしながらリハビリテーションの結果の社会復帰としては、自営業あるいは家族のもとに戻るというケースが多く、安定した雇用に結びつくケースは少ないという課題を抱えている。

このような背景からインドネシア政府はわが国に対し、就業に結びつく職業訓練コースの新設と、職業評価、職業指導機能の拡充を行い、職業リハビリテーションシステムの確立を目指すための技術協力を要請した。

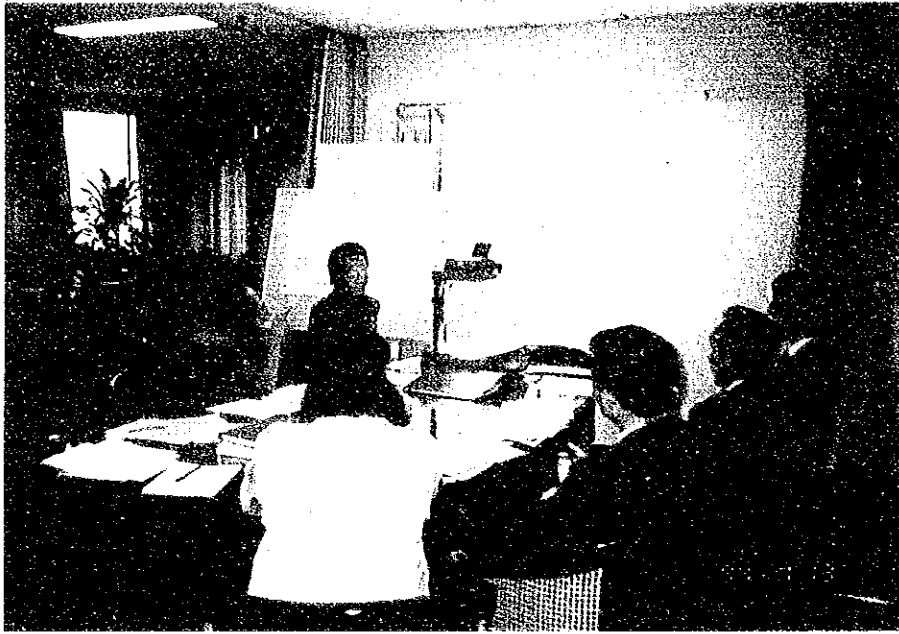
この要請に基づき国際協力事業団は平成5年2月、基礎調査団を派遣し要請内容の確認、当該分野の現状を調査した。今回その調査結果を基礎に、同事業団は協力内容の具体的検討を進めることを目的に平成6年4月10日から23日まで、財団法人雇用情報センター専務理事川上方満氏を団長とする事前調査団を派遣した。

本報告書は、この調査結果を取りまとめたものである。

終わりに、本調査に多大な協力を頂いた関係各位に対し、心より感謝の意を表するとともに、今後のご支援をお願いする次第である。

平成6年6月

国際協力事業団  
社会開発協力部  
部長 後藤 洋



調査団に第6次国家開発  
5カ年計画とプロジェクト  
について説明する  
社会省スシロ総局長（左）



ソロ身障者  
リハビリテーションセンター  
（ソロRC）所長室での  
打ち合わせ  
（左から3人目・ワスラン所長）

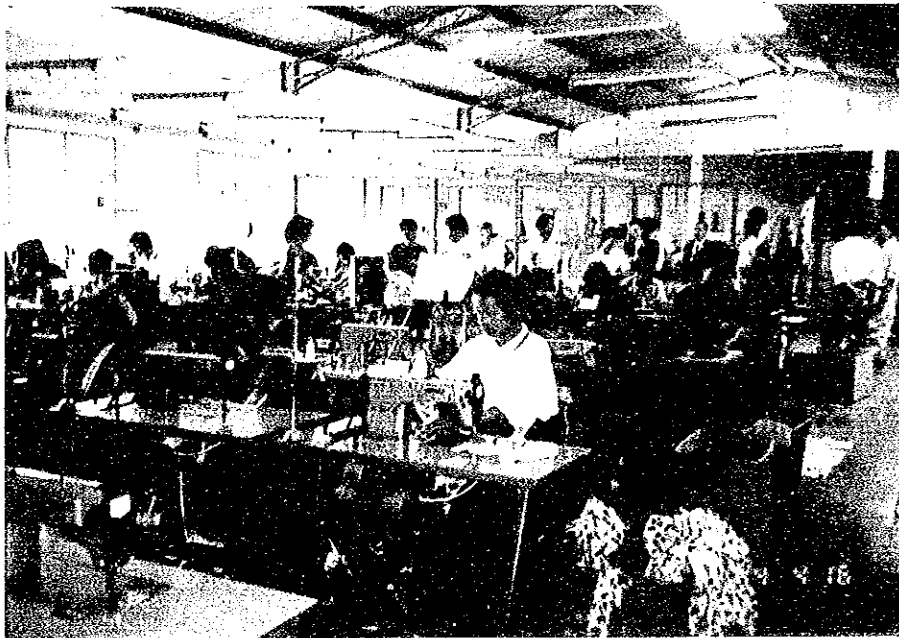


ソロRCでの全体会議





ソロRC縫製科



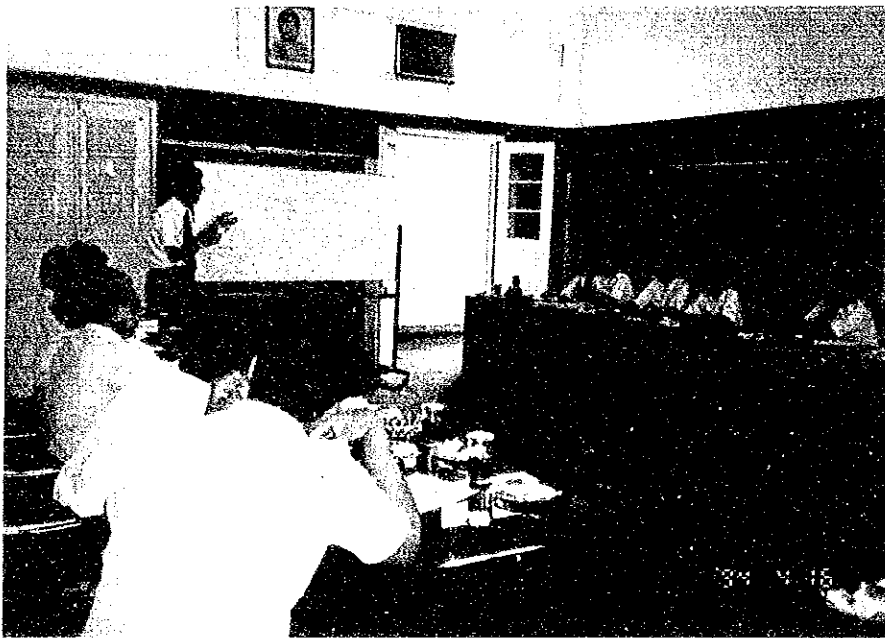
ソロ市内の縫製工場



LBK  
(技能訓練ワークショップ)  
縫製部門



ソロ市内の溶接工場



ソロRCでの協力内容協議

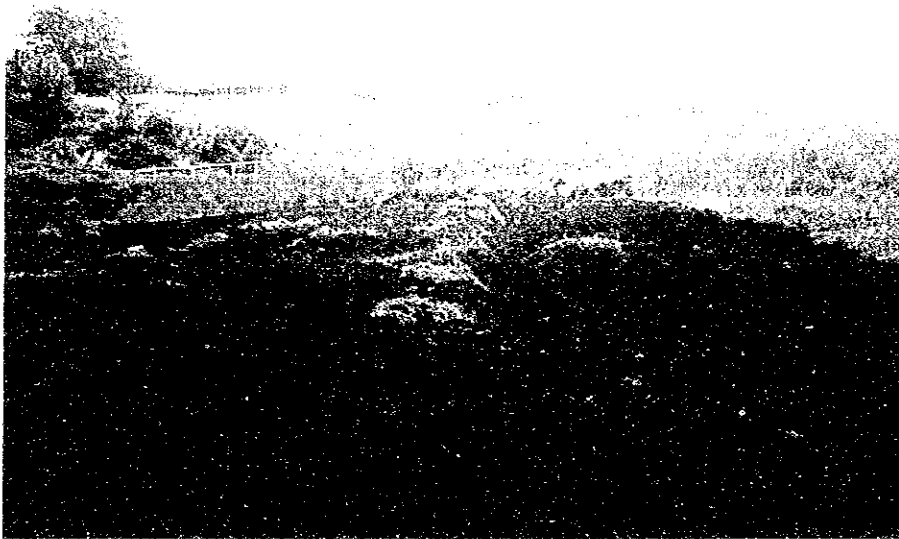


ソロRC正面で  
右から山田団員、川上団長、  
富田団員、棚橋団員、吉浦団員

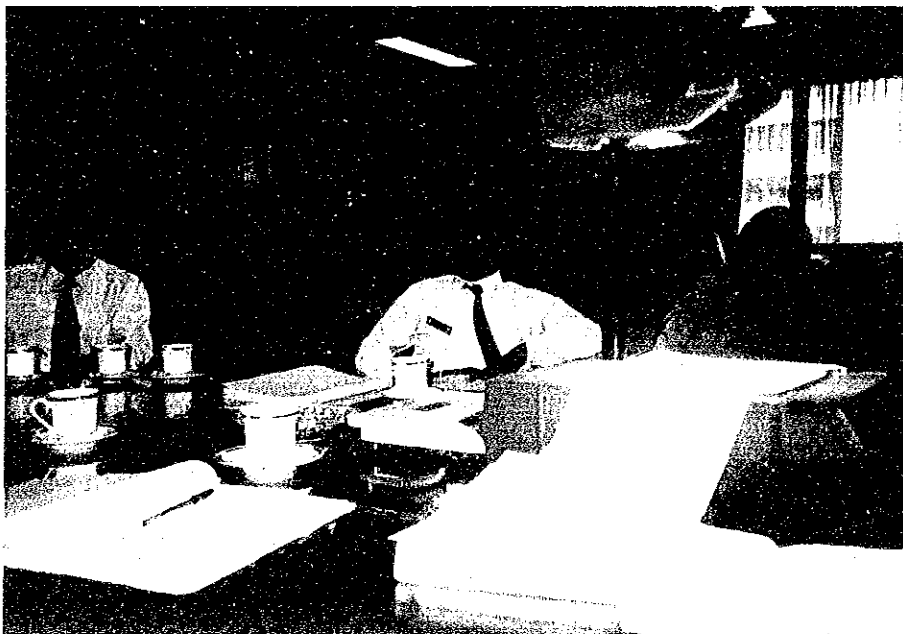


チェンカレン身障者訓練センターで  
施設の説明をするトリワジョ所長  
(テーブル中央)

その右は社会省身障者  
リハビリテーション課スタルノ課長、  
左は青年海外協力隊須藤隊員

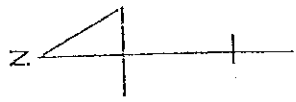


チビノンの国立身障者  
職業訓練センター建設予定地

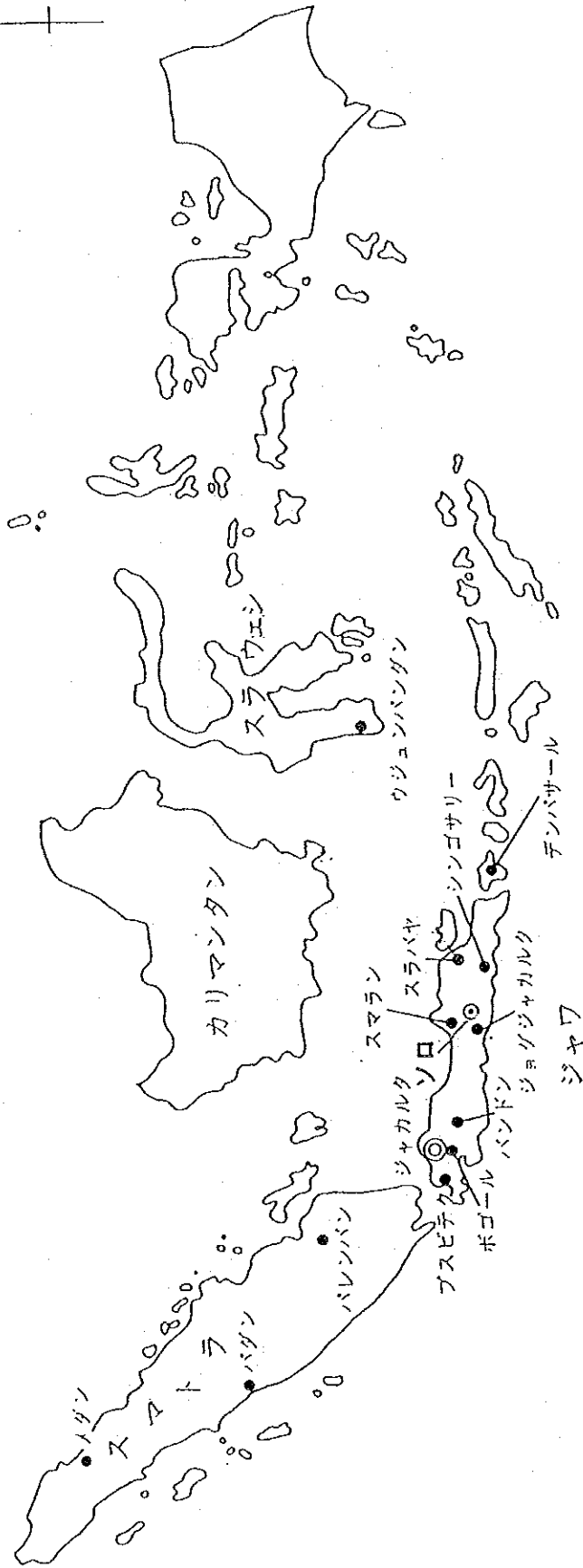


ミニッツ署名に同席した  
左から2人目APINDO  
(インドネシア事業家協会)  
エルミ氏

同3人目労働省  
身障者雇用課スギト課長



インドネシア全図



# 目 次

序 文  
写 真  
地 図

1. 調査団の派遣 .....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	2
1-3 調査日程表 .....	2
1-4 主要面談者 .....	3
2. 要約 .....	4
3. 要請の内容と背景 .....	5
3-1 要請の背景 .....	5
3-2 第6次国家開発5ヵ年計画(1994/95-1998/99) .....	5
3-3 要請の内容 .....	5
4. 協力分野の現状と問題点 .....	7
4-1 インドネシアの社会リハビリシステム .....	7
4-1-1 施設型 .....	7
4-1-2 非施設型 .....	11
4-2 職業訓練 .....	14
4-2-1 ソロ身障者リハビリテーションセンター .....	14
1) 紳士服、婦人服 .....	14
2) 溶接科 .....	16
3) 電子科 .....	16
4-2-2 チェンカレン身障者リハビリテーションセンター .....	16
4-2-3 BLK(労働省管轄の国立職業訓練校) .....	16
4-2-4 アカデミー .....	17
4-3 職業指導・評価 .....	17
5. 日本の他の協力との関連 .....	33
6. 第3国、国際機関の協力概要 .....	33

7. プロジェクトの目的と実施計画概要	34
7-1 名称	34
7-2 上位目標とプロジェクト目標	34
7-3 プロジェクトの活動と成果	34
7-4 フェーズ2構想	35
8. インドネシア側プロジェクト実施体制	37
8-1 ソロRC組織、事業概要	37
8-2 政府関係機関の支援体制	37
8-3 プロジェクトの予算措置	37
8-4 建物・施設計画	37
8-5 カウンターパート配置計画	38
9. プロジェクト協力の基本方針	41
9-1 協力の基本方針	41
9-2 協力の内容・範囲	41
9-3 部門別計画	42
9-4 専門家派遣計画	43
9-5 研修員受け入れ計画	43
9-6 資機材供与計画	44
10. 協議経過とミニッツ	49
11. PCM手法の利用	50
12. 技術協力の妥当性と留意事項	51
12-1 技術協力の妥当性	51
12-2 留意事項	52
12-2-1 職員研修と研究開発業務	52
12-2-2 カウンターパートの研修人員	52
12-2-3 職業訓練用機器	52
13. ソロにおける専門家の生活環境	53

資料	55
① ミニッツ	57
② 事前調査団調査結果表	69
③ PDM (案)	75
④ 社会省からの調査団に対する説明資料 (インドネシア語)	79
⑤ 社会省からの調査団に対する説明資料 (英語)	99
⑥ ソロRCからの調査団に対する説明資料	119
⑦ 社会省大臣へのソロ・チビノンプロジェクト説明資料	139
⑧ 社会省、労働省、内務省、事業家協会の企業・社会における障害者勤労者配置・活用に関する協力合意書 (1989年) (インドネシア語)	169
⑨ 社会省、労働省、内務省、事業家協会の企業・社会における障害者勤労者配置・活用に関する協力合意書 (1989年) (日本語)	175
⑩ 社会省、労働省、内務省、事業家協会の企業・社会における障害者勤労者配置・活用に関する協力合意書 (1989年) 実施要綱 (インドネシア)	181
⑪ 社会省、労働省、内務省、事業家協会の企業・社会における障害者勤労者配置・活用に関する協力合意書 (1989年) 実施要綱 (日本語)	195
⑫ 社会省、事業家協会のスラカルタ事業家協会企業における障害者雇用に関する合意 (1985年) (インドネシア語)	205
⑬ 社会省、事業家協会のスラカルタ事業家協会企業における障害者雇用に関する合意 (1985年) (英語)	209
⑭ スラカルタ事業家協会、労働事務所、ソロRC、社会省事務所の合意 (1994年) (英語)	213
⑮ ソロRC施設概要、施設配置図	219
⑯ ソロRC修了証書	225
⑰ チェンカレン身体障害者リハビリセンター説明資料	229
⑱ インドネシアセクター資料「社会福祉」 (仮訳)	233





# 1. 調査団の派遣

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

中部ジャワ・スラカルタにあるソロ身体障害者リハビリテーションセンターは、1946年の設立以来、インドネシアにおけるリハビリテーション施策の中心的、指導的役割を果たしてきたが、障害者のリハビリテーションの結果の社会復帰としては、自営業あるいは家族のもとに戻るというケースが多く、インドネシア政府が目指す障害者の社会参加、一般雇用に関わりつくケースは少ないという課題を抱えている。

このような背景からインドネシア政府はわが国に対し、就業に関わりつく職業訓練コースの新設と、職業評価、職業指導機能の拡充を行い、職業リハビリテーションシステムの確立を目指すための技術協力を要請した。

平成5年2月の基礎調査では要請内容の確認、当該分野の現状を調査し、医療分野を切り離れた協力が可能であること、職業評価・指導分野ではクライアントへの効果的なサービスを実施するために更に改善が必要であること、職業訓練分野では一般雇用を前提とする職業訓練中心のリハビリテーションシステムの構築が必要であること、最後に職業紹介については紹介体制があるものの労働省との関係が必要であることが明らかになった。

今回の事前調査では協力内容の具体的検討を進めるために、基礎調査結果に基づいた日本側協力案を提示し、インドネシア側の要請との調整をはかることを主な目的とした。また、本調査はソロ身体障害者リハビリテーションセンターにおける協力に関する内容の検討が主目的であるが、インドネシア側の国立障害者職業訓練センター（チビノンセンター）構想との関連についても可能な範囲で明確にすることも課題とした。

以下に本調査団の主な調査事項を掲げる。

1. 先方の要請（1991年10月）内容を確認し、日本側協力計画案と調整をはかる
2. チビノンセンター無償資金協力に対する要請との関連および、ソロ・リハビリテーションセンターにおけるフェーズ1の3年間に行う協力活動の策定と、チビノンセンターにおけるフェーズ2の活動とのデマケーションを行い、両フェーズによる複合プロジェクトとしての全体像を現時点で可能な範囲で明確にする。
3. インドネシアの現行の障害者リハビリテーションシステムおよびソロRCの現状を協力活動策定の見地から調査する。
4. インドネシア側実施体制が十分であるか確認する。
5. プロジェクト運営におけるPCM手法の利用について協議し、PDM案の検討を行う。

1-2 調査団の構成

総括／職業紹介	川上 方満	財団法人雇用情報センター 専務理事
職業指導／評価	山田 文典	日本障害者雇用促進協会総務部 職業評価専門家
職業訓練	富田 幸雄	雇用促進事業団茨城職業能力開発短期大学校 学務係長
職業訓練	棚橋 清枝	国立職業リハビリテーションセンター 職業カウンセラー
協力企画	吉浦 伸二	国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課 職員

1-3 調査日程表

日順	日付	調査内容
1	4/10日	移動 成田→ジャカルタ
2	/11月	JICA事務所にて打ち合わせ、社会省表敬、調査日程打ち合わせ 国家開発計画庁表敬訪問、日本大使館にて打ち合わせ
3	/12火	(休日) 資料検討等
4	/13水	社会省にて打ち合わせ 移動 ジャカルタ→ソロ
5	/14木	ソロリハビリテーションセンター(RC)表敬、視察 ソロRCにて協力内容協議(全体会議) ソロ市内視察
6	/15金	ソロRCにて協力内容協議 溶接、縫製工場、パラプレジック(対マヒ)障害者村視察(団長主催パーティ)
7	/16土	ソロRCにて協力内容協議(PCM概要説明) 縫製工場、スハルソ・スラカルタSheltered Workshop視察
8	/17日	資料整理、報告書作成
9	/18月	ソロRCにて視察打ち合わせ 障害児リハビリセンター視察 (A)LBK, KUP視察 (B)国立訓練センター視察 (ソロRC主催昼食会)
10	/19火	ソロRCにて協力内容協議(ミニッツ案合意) (ジャカルタへ移動) (CEVEST専門家と夕食会: 成岡専門家宅)
11	/20水	障害者雇用ガラス工場、チビノンセンター予定地、 チェンカレンセンター視察
12	/21木	社会省にて協議、ミニッツ作成 (団長主催パーティー)
13	/22金	社会省にて協議、ミニッツ署名(労働省、アピンド同席) JICA事務所、日本大使館にて調査結果報告 (移動) ジャカルタ→成田
14	/23土	成田着

#### 1-4 主要面談者

##### \* 社会省

Dr. H. Susilo Supeno Director General for the Development of Social Rehabilitation  
Drs. Sumardjo Director of Rehabilitation for the Disabled  
Drs. J. Soetarno Duputy Director of Rehabilitation for Physically Disable  
People

##### \* ソロ R C

Drs. Waslan Syech Director, National Rehabilitation Centre for the Physically  
Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta(RC Solo)  
Drs. Siswojo Senior Staff  
Drs. R. M. Istichfar Head, Rehabilitation Services Division  
Drs. Warsito, PH Head, Division for Placement and Protection  
Drs. Radix Sukamto Head, General Division  
Drs. Usman Head, Division for Preparation for Rehabilitation

##### \* ソロ労働省事務所

Drs. Widodo Director, Surakarta Regional Office, Ministry of Manpower

##### \* バペナス

Fasli Jalai, MD, Ph. D Head, Bureau for Health and Nutrition, National Development  
Planning Agency(BAPPENAS)  
Dra. Nina S., MA Head of Division, Bureau for Health and Nutrition, National  
Development Planning Agency

##### \* チェンカレン肢体障害者リハビリセンター

Mr. Triwahjo Director, Cengkoreng Rehabilitation Centre

##### \* 労働省

Drs. Sugito Muarief Head of Disabled Employment, Sub Directorate, Ministry of  
Manpower

##### \* APINDO (インドネシア事業家協会)

Ms. Ermi Yani S. L.

##### \* 日本側

成岡 衛 社会省派遣専門家  
須藤 道明 青年海外協力隊員 (チェンカレン肢体障害者センター)

粗 信仁 在インドネシア日本大使館 参事官

樋口 清高 同 一等書記官 (新任)

半田 有通 同 一等書記官 (前任)

## 2. 要 約

事前調査団対処方針に基づき、前述1～3日程表のとおり調査を実施した。

- ① プロジェクト名を「国立ソロ身体障害者リハビリテーションセンターの職業リハビリテーションシステムの開発プロジェクト」として、目的を明確にしたこと。
- ② 企業調査、教育訓練機関の調査等より、訓練科目を縫製（動力ミシン）、コンピュータ（パソコン）の2科に設定したこと。
- ③ ソロRCにおける訓練実習場、専門家居室等の設備につき所要の改修処置をとることを要請したこと。
- ④ カウンターパートをワーキンググループを含め日本人長期専門家あたり最低2名とし、候補者名簿の提出を求めたこと。
- ⑤ 協力内容を、縫製・コンピュータ科の職業リハビリシステムの開発とし、職員研修及び調査開発業務は国立職業訓練センター（チビノン）で行うこととした。ただし、国立職業訓練センターの円滑な実施のため、何らかの協力が必要であると考えられること。
- ⑥ 職業配置については、労働省所管業務であり、全国的に応募者がいる現状から、連絡会議の事情説明を受けるにとどめたこと。
- ⑦ リハビリセンター、非施設型リハビリ施設、国立職業訓練センター用地並びに企業、教育訓練施設を調査し、実情は握に努めたこと。
- ⑧ 本プロジェクトと国立職業訓練センタープロジェクトとの関係を明確にしたこと。

### 3. 要請の内容と背景

#### 3-1 要請の背景

インドネシア政府は、第1次長期国家開発計画期間（1965～1994年）を国家開発の基礎固め準備期間とした。その間、障害者のリハビリセンターは、国立2施設（身体障害者及び精神障害者施設各1）、州立施設（PANTI）21、県立施設（SASANA）13、合計37施設が設置された。加えて、民間のリハビリ施設が合計371施設ある。

一方、全人口約1億8千万人のうちに障害者が約3.11%（560万人）程度である。障害者の大半を身体障害者（27.3%）と視覚障害者（28.9%）で占めている。また、障害者の80%が田園地帯に居住し、全国土の7%に過ぎないジャワ島に障害者の70%が居住している。

前記長期計画を受けて第2次長期国家開発計画（1994～2009年）は、開発への前進の時であり、問題点を追求解決する時期としている。また、第2次長期国家開発計画の一般的目標は、「インドネシア人のよりよい生活と地域社会を創ること」であり、「インドネシア国民が生活のあらゆる面で自立し、より向上すること」である。

#### 3-2 第6次国家開発5ヵ年計画（1994/95～1998/99年）

第6次国家開発5ヵ年計画における社会福祉開発計画の基本的政策は、1993年国政要綱（GBHN）に示された、①人間中心の開発、②質の高いより向上した自立生活、③公正平等な生活の創造、④地域社会への参加である。これに基づき、社会福祉省の主要政策を、①社会福祉の量と効果を増大させることによる労働力の増加、②リハビリ計画目標の達成範囲・量の拡大、③地域社会への参加者の役割の増進、④サービスの専門性の増進としている。第6次国家開発5ヵ年計画における主要目標は、国家開発に資する労働力の能力の拡大に集約される。社会福祉開発もこの線にそっており、障害者を含む地域社会で不利な立場にある集団の能力を、国家開発の専門性のある労働力の構成員として開発していくことである。

この目標達成のため、障害者リハビリセンターに職業リハビリシステムを導入し、それを広く普及させるための職員研修機能及び障害者問題の研究・開発機能をもった職業リハビリセンターの要請がなされた。

#### 3-3 要請の内容

要請の内容は「インドネシア共和国ソロ身体障害者リハビリテーションセンタープロジェクト基礎調査団報告書」、47ページ～48ページ記載のとおりである。

要約すると、ソロリハビリセンターに①障害者に関する調査開発機能、②職員研修機能、③職業訓練5科程度を追加した職業リハビリテーションシステムを確立することである。

しかし、ソロRCは、用地、施設設備、労働力需要等の面で問題を抱えているため、ソロRCの

職業リハビリ機能をソロRCの1施設としてチビノンに建設予定の国立職業訓練センターへ移転する。その建設費用及び当該施設で行う職業リハビリシステム（職員研修及び調査・開発を含む）への技術協力要請が一体のものとして、構想されている。

## 4. 協力分野の現状と問題点

### 4-1 インドネシアの社会リハビリシステム

インドネシア社会省が作成した「インドネシアにおける障害者福祉の開発」(THE DEVELOPMENT OF THE SOCIAL WELFARE OF DISABLED PERSONS IN INDONESIA 1993)によると、現在のリハビリテーションサービスシステムは、施設に収容してサービスを提供する施設型 (INSTITUTIONAL SYSTEM) と障害者が居住する地域においてサービスを提供する非施設型 (NON-INSTITUTIONAL SYSTEM) に区分されている。(図4-1-1)

#### 4-1-1 施設型

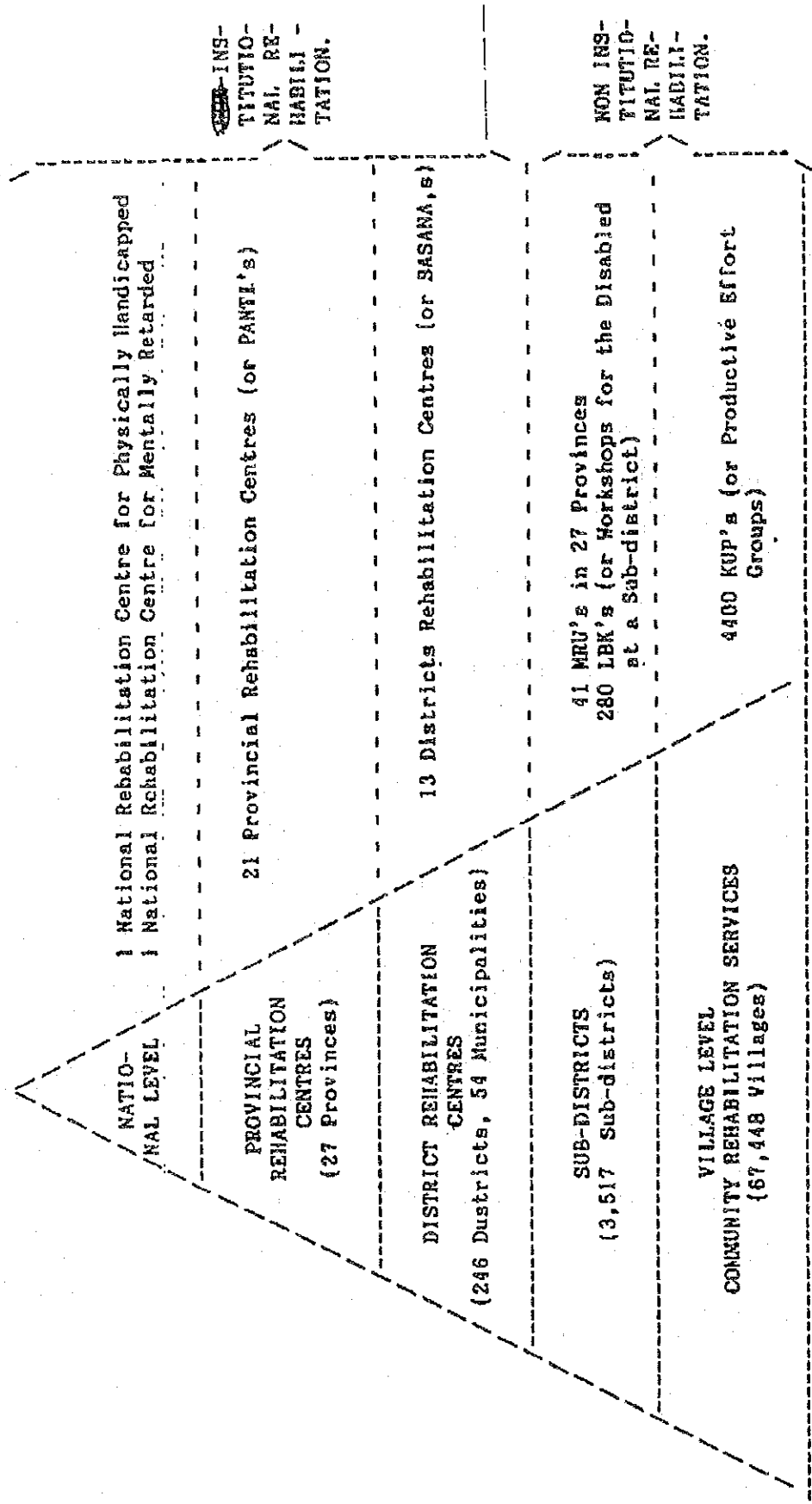
1993年現在、全国 (NATIONAL) レベルの施設が2ヵ所あり、1つは精神薄弱者を対象としたもの、1つは本プロジェクトの調査対象となっている身体障害者を対象とするソロセンター (PROF. DR. SOBHARSO REHABILITATION CENTRE) である。このほか州 (PROVINCIAL) レベルのものが21ヵ所、県 (DISTRICT) レベルのものが13ヵ所ある。施設の所在地、施設名、レベル、対象とする障害者種類、定員、入所者数、作業職種などは別表のとおり。(表4-1-1) ただし、図4-1-1では、施設数は36となるが、表4-1-1では施設が34しか掲載されていない、さらに社会省の資料の11頁には施設数37ヵ所となっており、どれが正確な数字かはっきりしない。

これらの施設は、社会省の州事務所と連携をとって、対象者を受け入れ、職業前訓練を行い、自立のための支援を行っている。1所当たり約1万人の障害者をカバーすることとされており、このうち20%の約2千人の障害者が施設型のサービスを必要としているとのことである。これで試算すると、インドネシア全体では、550万人の障害者がいるとされているので、約108ヵ所が必要となる。このため社会省では、既存施設の改善とともに、各地域ごとに施設を増設すべく努力している。

(表4-1-2) 今回の調査で我々が見ることができたのは、全国レベルのソロセンター、州レベルの身体障害者を対象とするチェンカレンセンターである。チェンカレンセンターは、ジャカルタにあり、定員60人に対して、縫製を中心として印刷、電気修理、木工などの職業前訓練を行っていた。施設での職業前訓練を修了した障害者の行き先は、自営、L B K (WORKSHOP OF DISABLED PERSONS)、K U P (PRODUCTIVE EFFORT GROUP)、雇用、在宅等があるが、企業への就職はきわめて困難というのが現状のようである。

インドネシアの社会リハビリテーションサービスは、ソロから施設型でスタートし、しだいに農村地域に住む障害者に対する非施設型のサービスへと拡大、変化してきている。

STRATIFICATION OF THE REHABILITATION SERVICES  
IN INDONESIA





THE LIST OF REHABILITATION CENTRES IN CHONESIA

NO.	PROVINCE	CITY	NAME OF CENTRE	AREA (sq)	LEVEL	KINDS OF DISABILITY							CITY	CAPA- CITY	PROGU- CITY	TRAINING COURSE
						PH	VI	MD	CHD	EX	PSY	OTH				
1.	Aceh	Sigi	Gukil Terang	95,387	Pro											Handycraft, home industry
2.	North Sumatra	Medan	Bina Guna	21,200	Dis											Handycraft, home industry, massage, poultry
3.		P. Siantar	P. Siantar	33,889	Pro											Handycraft, salon, home industry, sewing
4.	West Sumatra	Padang	Kalumbuk	12,869	Pro											Sew, handycr., home ind., agric, poultry, painting
5.	Riau															
6.	South Sumatra	Palembang	Palembang	47,230	Pro											Sewing, wooding, poultry, farming, cooking, majos
7.	Bengkulu	Bengkulu	Pagar Dewa	50,900	Pro											Handycraft, wooding, agriculture
8.	Lampung	Ban. Lampung	Indra Kusuma	6,900	Dis											Handycr., home ind., massage, agriculture, poultry
9.	Jakarta	S. Jakarta	Wisma Tap Niyal	22,683	Pro											Handycraft, home industry, poultry, massage
		S. Jakarta	Taman Harapan	3,789	Pro											Handycraft, home industry, massage, poultry
		S. Jakarta	Manbu Apus	10,600	Pro											Electro-car repair, salon, home ind., sew., welding
		S. Jakarta	Cengkareng	4,371	Pro											Sewing, printing, electronics, wooding
10.	West Java	Dandung	Wiyata Guna	38,000	Pro											Handcraft, home industry, massage, agriculture, poultry, Braille printing
		Sukabumi	Phala Martha	44,490	Pro											Sewing, wooding, handycraft, agricul., poultry, printing
		Bogor	Cibitung	50,000	Pro											Sew., home ind., handycr., wooding, agricul., print
11.	Central Java	Pemalang	Brislarasia	21,500	Pro											Handycraft, home industry, massage, poultry
		Kudus	Pendowo	3,500	Dis											Handycraft, home industry, massage
		Sukakarta	Prof. Dr. Soeharso	55,410	Dis											Sewing, wooding, print, salon, home ind., adminis.
		Sukakarta	Sarasarta	6,000	Dis											Handycraft, home ind., massage, poultry
		Purworejo	Purworejo	8,000	Dis											Handycraft, home industry, massage
		Teanungung	Teanungung	37,409	Dis											Sewing, handycr., home ind., agriculture, poultry
		Sragen	Sri Sowanro	10,365	Dis											Handycr., home ind., massage, agriculture, poultry
		Sragen	Blabarjo	25,979	Pro											Sewing, cooking, battery charging, home ind., house keeping, wooding
12.	Yogyakarta	Yantiul	Hardi Guna	20,000	Dis											Handycr., home ind., massage, agriculture, poultry
13.	East Java	Malang	Budi Mulyo	40,120	Pro											Handycr., home ind., massage, agriculture, poultry
		Pasuruan	B. & S. I	60,000	Pro											Sewing, electronics, printing
		Tuban	Mahotakya	6,580	Dis											Handycraft, home industry, massage, poultry
14.	Deli Mera Tenggara															
15.	East Nusa Tenggara															
16.	East Nusa Tenggara	Kupang	Ililbia	11,528	Dis											Handycr., home ind., massage, agriculture, poultry
17.	East Timor	Timor	Kupang													
18.	West Kalimantan															
19.	Central Kalimantan															
20.	South Kalimantan	Martapura	Fajar Harapan	10,000	Dis											Handycraft, home industry, massage, poultry
		Ban. Banjarmasin	Budi Luhur	25,100	Pro											Wooding, agriculture, handycraft, poultry
21.	East Kalimantan															
22.	North Sulawesi	M. & S. d o	Timeloo	50,000	Dis											Handycraft, home industry, massage, poultry
23.	Central Sulawesi	Palu	Palu	10,800	Pro											Handycraft, home industry, agriculture
24.	South Sulawesi	Ujung Pd.	Ujung Pandang	60,000	Pro											Sewing, agricul., wooding, salon, print, electronic
25.	S.E. Sulawesi															
26.	Maluku	Ternate	Sorofo	33,300	Pro											Sewing, agricul., wooding, printing, brick making
27.	Irian Jaya	Siak	Cendraswasih	19,662	Dis											Handycraft, home industry, poultry

Note : - Has = National; Pro = Province; Dis = District  
 - PH = physically handicapped; VI = visually handicapped; MD = mental disorder (central retarded/ ex-psychotic);  
 - CHD = deaf & mute; CHD = ex-chronically patient.  
 - \* = ex-psychotic

表4-1-2

F0401915

ANNEX-F

THE NUMBER OF DISABLED PERSONS IN 9 REGIONS  
AND THE REQUIREMENT OF REHABILITATION CENTRES

NO.	R E G I O N	NUMBER OF DISABLED	RC		
			AVAIL- ABLE	TOTAL NEED	ADDI- TION.
1.	ACEH, NORTH SUMATRA, RIAU.	500,710	3	10	7
2.	BENGKULU, JAMBI, WEST SUMATRA	173,282	2	3	1
3.	SOUTH SUMATRA, LAMPUNG, WEST KALIMANTAN.	635,901	2	12	10
4.	JAKARTA, WEST JAVA, CENTRAL JAVA.	2,162,694	13	42	27
5.	EAST JAVA, YOGYAKARTA, BALI.	1,189,575	4	23	19
6.	EAST KALIMANTAN, CENTRAL KA- LIMANTAN, SOUTH KALIMANTAN.	217,700	2	4	2
7.	EAST NUSATENGARA, WEST NUSA- TENGARA, EAST TIMOR.	223,920	3	4	1
8.	CENTRAL SULAWESI, SOUTH SULA- WESI, SOUTH EAST SULAWESI.	312,244	2	6	4
9.	MALUKU, IRIAN JAYA, NORTH SU- LAWESI.	177,270	3	4	1
T O T A L		5,593,297	36	108	72

#### 4-1-2 非施設型

非施設型サービスは、施設の中ではなく障害者が住んでいる農村等の地域の中で提供されるものであり、次のようなメニューが用意されている。

##### (1) 障害の予防又はガイダンス・啓蒙活動

障害の予防や啓蒙活動は社会省が中心になって行っている。

##### (2) MRU (MOBILE REHABILITATION UNIT) 及び CBR (COMMUNITY-BASED REHAB.)

施設不足を補うとともに農村地域に対するサービスの必要性から、国連・障害者の10年等を契機として地域密着型のリハビリテーション活動 (CBR) が活発になってきている。CBRは、バスやトラックにスタッフと機材を積んで農村地域を訪問し、障害者の発見、短期の職業前訓練、福祉機器の提供、病院や福祉施設の紹介等の社会リハビリテーションに関する集団検診を行う移動リハビリユニット (MRU) を中心として行われている。

社会省の資料によると1つのMRUで200人の障害者をカバーすることができるとされており、この計算でインドネシア全体の必要数を試算すると、現在あるMRU44ユニットの倍以上の108ユニットが必要とされている。MRUの数の不足とMRU運営費の不足が悩みとのことである (表4-1-3)

##### (3) L B K

L B Kは、さまざまな障害者を郡 (SUB-DISTRICT) レベルの小さなワークショップに集めて、技能訓練等を行うことにより自立を支援するものである。1993年現在280L B Kが運営されているが、300ある各県 (DISTRICT) に5ヵ所づつ設置するという社会省の構想では、全国で1,500のL B Kが必要となり、これまた数不足である。(表4-1-4)

L B Kの約90%は概ね良好に運営されているとのことである。我々が訪問したソロのL B Kでは、ソロセンターの修了者等が車椅子や机の製作、美容、写真現像、バイク修理等を行っていた。

##### (4) K U P

K U Pは、村落 (VILAGE) レベルの小規模作業グループであり、障害者に自営の力を身につけてもらうことを目的とするものである。1993年現在4,400のK U Pがあるが、障害者500人に対してK U P1ヵ所という社会省の構想では、全国で11,000のK U Pが必要となる。(表4-1-4)

K U Pの25%は良好に運営されている。我々が訪問したK U Pでは、高齢の障害者が近所の住人から仕事を請け負い、足踏みミシンで縫製作業を行っていた。

##### (5) P B K (ON THE JOB TRAINING)

P B Kは、民間企業を活用して職業前訓練を行うものであり、職務遂行能力ありと判断された者はそのまま企業へ就職できる。わが国の制度にあてはめると職親制度、障害者職業センターで行っている職務試行法に相当するものである。

表4-1-3

H0401S15

(MRUの欠数)  
现状不足数

ANNEX-H

THE REQUIREMENT OF MOBILE REHABILITATION UNITS

NO.	PROVINCE	MRU AVAILABLE			NEED MORE OF			IDE-AL NUMBER	2 WHEEL VEHICLE SUPPLEMENT	
		TRUCK	BUS	MINIBUS	TRUCK	BUS	MINIBUS			
1.	A C E H	-	1	-	1	1	-	2	4	3
2.	NORTH SUMATRA	2	1	-	3	-	-	2	5	3
3.	WEST SUMATRA	-	1	-	1	1	-	2	4	3
4.	RIAU	-	1	-	1	1	-	2	4	3
5.	JAMBI	-	1	-	1	1	-	2	4	3
6.	SOUTH SUMATR.	1	2	-	3	-	-	2	5	3
7.	LAMPUNG	-	1	-	1	1	-	2	4	3
8.	JAKARTA	2	1	-	3	-	-	1	4	3
9.	WEST JAVA	2	1	1	4	-	1	2	7	3
10.	CTR JAVA	2	1	1	4	-	-	1	5	3
11.	YOGYAKARTA	-	1	-	1	2	-	1	4	3
12.	EAST JAVA	2	1	1	4	-	-	2	6	3
13.	W. KALIMANTAN	-	1	-	1	1	-	1	3	3
14.	C. KALIMANTAN	-	-	1	1	1	-	1	3	3
15.	S. KALIMANTAN	-	1	-	1	1	-	1	3	3
16.	E. KALIMANTAN	-	1	-	1	1	-	1	3	3
17.	N. SULAWESI	-	1	-	1	1	-	2	4	3
18.	C. SULAWESI	-	1	-	1	1	-	2	4	3
19.	S. SULAWESI	-	1	1	2	1	-	2	5	3
20.	S.E. SULAWESI	-	1	-	1	1	-	1	4	3
21.	MALUKU	-	1	-	1	-	-	2	3	3
22.	BALI	1	1	-	2	-	-	1	3	3
23.	W. NUSA TENGG.	-	1	-	1	1	-	1	3	3
24.	E. NUSA TENGG.	-	1	-	1	1	-	2	4	3
25.	IRIAN JAYA	-	1	-	1	1	-	2	4	3
26.	BENGKULU	-	1	-	1	1	-	1	3	3
27.	EAST TIMOR	-	1	-	1	1	-	1	3	3
TOTAL		12	27	5	44	20	1	42	108	81

(LBK, KUP の  
現状と将来)  
ANNEX-M

THE NUMBER OF "LBK'S" AND "KUP'S"

NO.	PROVINCE	PRESENT NUMBER		TOTAL FUTURE NUMBER	
		LBK	KUP	LBK	KUP
1.	A C E H	11	90	50	201
2.	NORTH SUMATRA	16	215	85	633
3.	WEST SUMATRA	12	182	70	239
4.	RIAU	8	110	30	178
5.	JAMBI	7	118	30	125
6.	SOUTH SUMATRA	11	231	55	371
7.	LAMPUNG	7	104	20	449
8.	JAKARTA	9	352	25	570
9.	WEST JAVA	23	192	108	2,056
10.	CENTRAL JAVA	23	253	180	1,706
11.	YOGYAKARTA	5	148	25	186
12.	EAST JAVA	25	214	190	1,996
13.	WEST KALIMANTAN	7	127	33	190
14.	CENT. KALIMANTAN	6	146	30	78
15.	SOUTH KALIMANTAN	10	124	50	268
16.	EAST KALIMANTAN	6	136	30	109
17.	NORTH SULAWESI	7	183	30	150
18.	CENTRAL SULAWESI	7	150	20	105
19.	SOUTH E. SULAWESI	5	100	20	79
20.	SOUTH SULAWESI	17	291	115	427
21.	MALUKU	5	165	25	109
22.	BALI	9	133	40	169
23.	W. NUSA TENGGARA	7	242	30	196
24.	E. NUSA TENGGARA	13	146	60	204
25.	IRIAN JAYA	10	120	45	95
26.	BENGGULU	4	123	20	69
27.	EAST TIMOR	1	43	65	42
TOTAL		281	4,440	4,440	11,000

1,500?

## (6) その他

その他、非施設型のリハビリテーションとして、家族から隔離収容されているライ病患者に対して住宅等を提供する LIPOSOS (RE-FUNCTIONALIZATION & RE-SETTLEMENT VILLAGES FOR THE DISABLED)などが行われている。

### 4-2 職業訓練

#### 4-2-1 ソロ身障者リハビリテーションセンター

詳細は基礎調査団が報告済みなので、今回は要請内容に示された訓練職種についての報告に限定する。ソロRCにおける訓練職種は28コースが設定され、入所者の中で約200名弱が職能訓練を受けている。受講者の多い職種は縫製、写真、ラジオ修理等である。(表4-2-1)

##### 1) 紳士服、婦人服

現在縫製関係の訓練職種は、紳士服、婦人服の2職種が実施されている。訓練期間は6ヵ月、定員は紳士服が40名、婦人服が30名に設定され、受講生も多く人気の高い職種である。ソロ近辺の縫製工場に就職する者もいるが、訓練は自営を目標とした社会リハビリテーションの一環として実施されている。

訓練内容は自営を目的としている事から、ブラウス、シャツ等の課題を個別に製作する方式がとられている。指導書も少なく材料費も限られていて、現状以上の内容の向上は難しい。機材も旧式の足踏みミシンと数台の縁かがりミシン、アイロンプレス台等が雑然と配置されている。裁断台、整理戸棚、器工具等備品の数も少なく、現状の機械設備では、一般雇用を目標とした職業訓練の実施は困難である。

訓練の対象者は、歩行による基本的な移動能力を有している下肢障害者が殆どで、上肢に障害のある者は極めて少数である。学歴も小学卒レベルが多いが、指導内容によっては高いレベルの技能習得が期待できる対象者も見込まれる。

就職は自営する者が多いが、ソロ近辺の縫製工場にも多数雇用されている。ソロ近辺には大小あわせて3万程度の縫製企業があり、今後も多くの求人は期待できる。輸出向けのシャツを製品化している工場では、従業員200名の内、障害者が20名近く就業している。10年前より障害者を雇用し、ソロの修了生も80名程度が採用されている。障害者は平均して3～4年働き独立するための資金を貯め、ミシンを購入し自営する者が多い。1日の最低賃金が3000ルピア程度(150円程度)であり、技能を身に付けた後は独立した方が経済的には有利なようである。ソロRCでの訓練は企業ニーズと合致していないため、2～3週間動力ミシンによる訓練を実施してからラインに配置している。アメリカ向けのワンピースを製品化している工場でも、ソロRCの修了生が5～6名働いている。従業員は80名程度で規模は小さいが、オーナーがデザインしたオリジナル製品を扱っているため、縫製技能も高いレベルが要求され、前述のシャツの工場に比べれば賃金は高い。この種の工場では縫製工としての採用だけでなく、パターン製作

表 4 - 2 - 1

## TRAINING COURSE IN RC PEROF. DR. SOEIHARSO

NO	PRESENT TRAINING COURSE			CLIENTS			EXPECTED VOCATIONAL TRAINING		
	NAME OF COURSE	DURATION	CAP.	'89	'90	'91	NAME OF COURSE	DURATION	CAP.
1	Men Tailoring	6 months	40	-	39	41	Machine Sewing	6 months	15
2	Women Tailoring	6	30	2	33	23		- 1 year	
3	Photography	3	25	19	15	22			
4	Radio Repair	6	25	23	25	23	Home Electronics	6 months	10
5	TV Repair	6	15	-	-	-		- 1 year	
6	Barber	6	15	-	-	-			
7	Wave Salon	6	15	13	8	10			
8	Watch Repair	3	5	3	1	2			
9	Silver Handicraft	3	5	1	-	-			
10	Houlage Rope	6	5	2	1	-			
11	Welding	3	5	5	5	-	Welding	6 months	10
12	Bike-cycle Repair	6	5	2	1	3	(Metal Work)	- 1 year	
13	Motorcycle Repair	6	10	8	1	6			
14	Wheelchair Repair	6	5	-	-	-			
15	Printing Service	6	5	4	1	4			
16	Carpenter	3	5	1	-	1			
17	Furniture	3	10	2	3	8			
18	Wood Carving	6	10	6	2	7			
19	Shoes Making	6	5	-	-	-			
20	Prosthetic & Ortho- tic Repair	6	5	3	-	4			
21	Knitting	3	5	2	5	4			
22	Embroidery	3	5	-	-	-			
23	Plaiting	3	15	11	12	13			
24	Car Repair	6	10	-	-	-			
25	Car Drive	3	10	-	-	-			
26	Cast Aluminium	3	5	-	-	-			
27	Design Interior	6	5	-	-	-			
28	Administration & Se- cretary	6	15	13	11	15	Computer (Clerical Work)	6 months - 1 year	15
TOTAL			315	120	163	184			50

や裁断部門等での雇用職種の拡大も期待できそうである。

## 2) 溶接科

入所希望者は少なく機械設備も旧式で、調査団が見学した時点では訓練が実施されていなかった。

事業者連合（アピンド）のメンバーが経営し、障害者も雇用しているソロ市内にある中規模溶接工場の見学の機会を得たが、門扉類等の注文が多く、事業主は就業者にそれほど高い技能レベルを求めてはいない。主機材は電気溶接、ガス溶接であるが、アルゴンガス溶接機、移動用のエンジン溶接機も備えている。門扉類は日本のように工場生産現地組立方式ではなく、溶接による製作が主であり需要は高いが、雇用に関しては求職待機者も多く、採用側のニーズが膨らむことはない。

自営という進路も当地においては多いが、溶接機は価格が高く、縫製科修了生のように数年雇用された後、自営という道は難しいと思われる。またソロにある労働省管轄の職業訓練校（BLK）でも、高いレベルの訓練を実施しており、職種としても危険を伴う現場作業であり、身障者の職業訓練職種とするのは困難と判断する。

## 3) 電子科

テレビ修理科では、測定機器はオシロスコープ台とテスターのみを使用し、接触式（ダイヤル式）チャンネル・白黒TVの修理を訓練していた。しかし、今後インドネシア国においてもリモコン式カラーTVは増加傾向にあり、他の国立職業訓練校において十分な訓練を実施しており、TV修理法も変革している現在、日本の技術協力を現段階で実施するのは難しい。

### 4-2-2 チェンカレン身障者リハビリテーションセンター

全国にソロRCを含めて5ヵ所ある国立の肢体障害者の訓練施設の一つであり、ジャカルタ近郊に設置されている。訓練科目は8コース（紳士服、婦人子供服、写真、Tシャツプリント、印刷、溶接、義足製作、電子）が設定され、訓練期間は1年間である。ジャカルタ近郊に位置しているため、就職率は100%に近い。1991年より縫製関係と電子の訓練に、青年海外協力隊隊員が派遣され、現在須藤隊員が電子科の指導に当たっている。協力隊員の指導と日本からの機材・備品等の援助もあり、ソロRCに比べ指導内容も高く機材設備も整っている。紳士服の指導員も日本で研修を受けており、日本式の平面製図の授業を実施していた。協力隊員が一番苦勞するのは教材費の少ないことであり、ミシンの操作練習等は新聞紙を使用することもある。ジャカルタ市内の縫製工場、家電メーカー等からの協力も得ているが、材料の調達はなかなか難しいようである。

### 4-2-3 BLK（労働省管轄の国立職業訓練校）

インドネシア国においても職業訓練は労働省管轄で実施され、各地に国立の職業訓練校が設置されている。ソロ市内の職業訓練校は、機械、自動車、電気、溶接、事務、工芸、縫製等の30職



種が設定され、4～6ヵ月の訓練が実施されている。コンピュータの訓練は将来構想には計画されているが、現時点では実施されていない。求職者は無料で訓練が受けられるが、在職者は有料で向上訓練が実施され、インストラクターの訓練も行われている。

全科にわたって機械設備は旧式であるが、保守管理はゆき届き配置も整然としている。日本で長期研修を受けた指導員もいて、カリキュラムや教材の作成等系統だった訓練が実施されている。これら労働省で培われている職業訓練のノウハウを、社会省の障害者の職業訓練にも適用できるよう省庁間の協力を期待したい。

#### 4-2-4 アカデミー

ソロ市内にある私立の専門校で、事務及びコンピュータの訓練を実施している。コンピュータ専門コースは3年間で、アプリケーションやプログラム等の訓練が実施されている。1年間の秘書科コースも、アプリケーションソフトが訓練カリキュラムに含まれ、LOTUS 1-2-3、dBASE III PLUS、WORD STAR等が多く使用されている。コンピュータ設置設備も、冷房やスタビライザー等が完備され、カリキュラムや教材も整い体系的な指導がなされている。就職については企業でのコンピュータ需要が増大し、求人側にとっては人材が絶対的に不足しており企業ニーズは大きい。

#### 4-3 職業指導・評価

今回、社会省のSUSILO総局長からいただいた「CHECK LIST ANSWER OF PROF. DR. SUHARSO REHAB. CENTRE "SOLO" AS INFORMATION TO THE JAPAN MISSION」によりソロセンター各部の業務内容を見ると次のようになっている。このほか、総務部（広報、総務、人事、予算）、義肢装具の製作・修理を行うワークショップ、手術の予後や健康状態を見る部門、基礎教育や補修を行う教育部門がある。（図4-3-1）

なお、業務の流れについては、基礎調査団報告書（25頁）を参照されたい。

##### (1) 準備部 (DIVISION FOR PREPARATION)

準備部は、主として受付、相談、確認、宿泊施設の手配、リハビリテーションサービスの選択と計画、身体的健康の維持増進、リハビリテーションプログラムへ向けてのガイダンス等を行っている。

##### イ 相談課 (REGISTRATION, OBSERVATION & IDENTIFICATION SECTION)

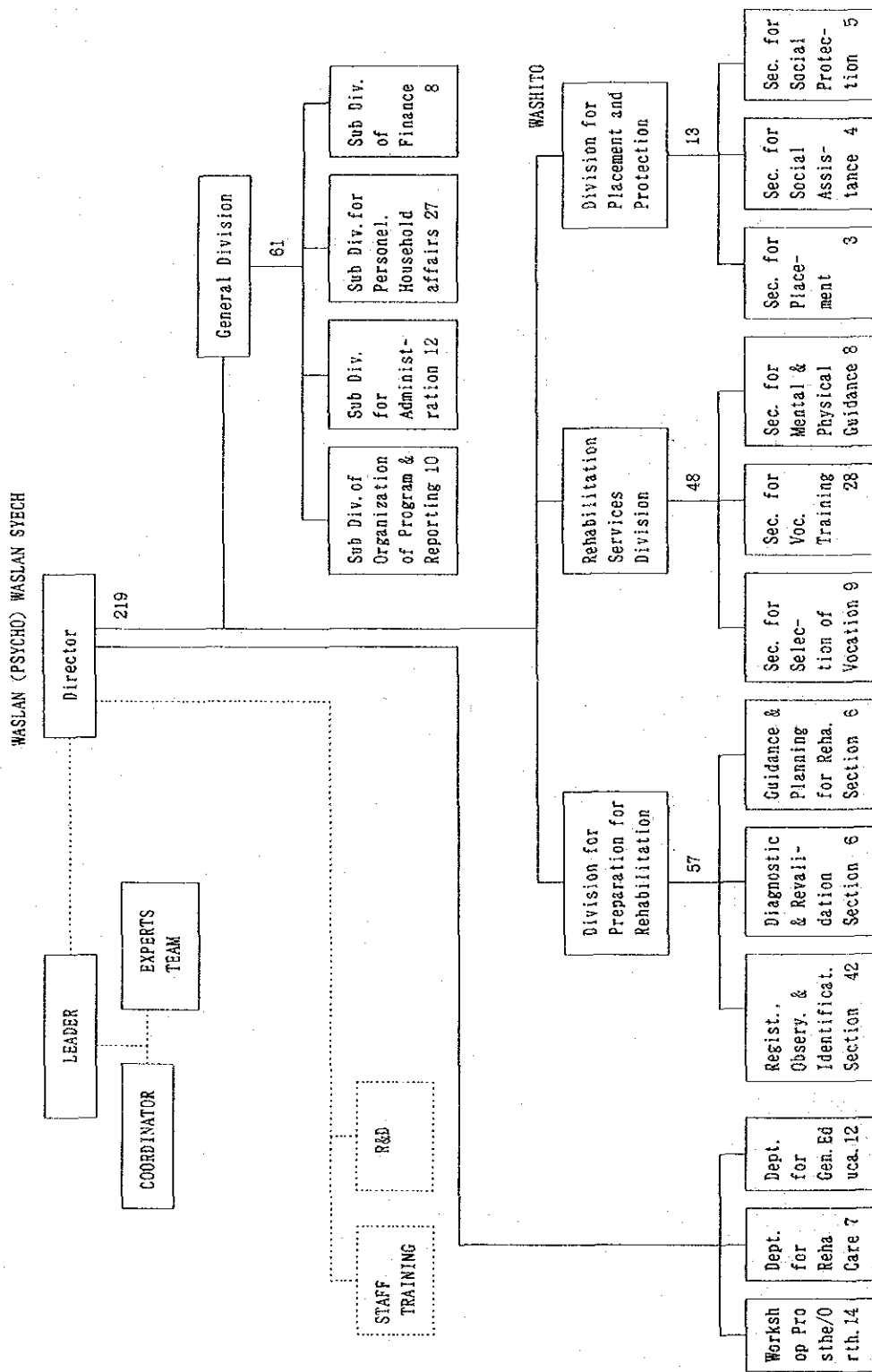
受付、相談、確認、選考、宿泊施設の確保等

##### ロ 判定課 (DIAGNOSTIC & REVALIDATION SEC.)

社会的側面の評価及びパラメディック、作業療法等で行われる障害状況、健康状態、身体的訓練の判定を含むリハビリテーションの準備

##### ハ 計画課 (GUIDANCE & PLANNING FOR REHAB. SEC.)

図 4 - 3 - 1 FUNCTIONAL STRUCTURE OF PRO. DR. SCEHARSO REHABILITATION CENTER FOR THE PHYSICALLY HANDICAPPED



--- (Voc. Reha) - 新しものを作る

--- (Social Reha) - 現状のままにしておく

リハビリテーションプログラムへの準備と参加、自由時間の使い方等一般的教育活動の準備

(2) サービス部(DIV. FOR SERVICE)

サービス部は、心理テストやアチーブメントテストの実施、適正作業の選定、職業前訓練の実施、精神的・身体的ガイダンスの実施、地域活動やスポーツの指導を行っている。

イ 評価課(SEC. FOR SELECTION)

心理テストや評価テストの実施、作業の選択に必要な情報の提供

ロ 職業前訓練課(SEC. FOR VOCATIONAL TRAINING)

職業前訓練及び反復訓練の実施

ハ 指導課(SEC. FOR MENTAL & PHYSICAL GUIDANCE)

精神的、身体的指導の実施

(3) 援護部(DIV. OF PLACEMENT & PROTECTION)

援護部では、職業指導、社会生活の援助、フォローアップ、障害者の保護を行っている。

イ 措置課(SEC. FOR PLACEMENT)

障害者の技能、能力に応じた措置先の準備と紹介

ロ 福祉課(SEC. FOR SOCIAL ASSISTANCE)

家庭生活の支援、自営のための資金や機器の提供、義肢装具の修理援助

ハ 援護課(SEC. FOR SOCIAL PROTECTION)

措置後の障害者のフォローアップと保護

同センターは、職員数 219人、対象者の定員 315人で運営されているが、89年度の訓練対象者が120人、90年度163人、91年度184人で、①徐々に増加しているが依然として定員を大きく下回っていること(表4-3-1)、②テレビ修理、理容、製靴等実施されていない職業前訓練が多いこと、③開発予算は確保されているものの94年度の予算が500万円以下(予算総額の16%)と少ないこと(表4-3-2)、④専門職員の職種、資格、経歴についても精査はできなかったが、知識技術が不十分な上に異動が少ないためマンネリ化している、等の課題があると考えられる。

入所者の状況は、基礎調査の別表に詳述してあるが、中部ジャワだけでなく広く全インドネシアから障害者を入所させていることがわかる。また、過去9年の措置状況を見ると、約4人に3人が自営、5人に1人が雇用(このほか一部保護雇用)となっており、企業への就職が難しいことがわかる。(表4-3-3、4-3-4)

対象者の募集及び就労援助を行うに当たっては、関係機関との連携が必要であるが、同センター周辺については概ね良好と考えられる。ただし、企業への就職活動となると話は別で、障害者雇用制度が存在しない状況では、プロジェクト実施後は、潜在能力の高い対象者を集めて、モデル的な職業訓練を行うことにより事業主がぜひわが社にきてほしいと思うような優れた技能者に育て、優良企業に就職させることが必要になることから、全国レベルでの一層の緊密な連携が不可欠である。

TRAINING COURSE IN RC PEROF. DR. SOEHARSO

(前例傳の定規)  
電機

NO	PRESENT TRAINING COURSE			CLIENTS			EXPECTED VOCATIONAL TRAINING		
	NAME OF COURSE	DURATION	CAP.	'80	'90	'91	NAME OF COURSE	DURATION	CAP.
1	Men Tailoring	6 months	40	-	39	41	Machine Sewing (1)	6 months	15
2	Women Tailoring	6	30	2	33	23		- 1 year	
3	Photography	3	25	19	15	22			
4	Radio Repair	6	25	23	25	23	Home Electronics (4)	6 months	10
5	TV Repair	6	15	-	-	-		- 1 year	
6	Barber	6	15	-	-	-			
7	Wave Salon	6	15	13	8	10			
8	Watch Repair	3	5	3	1	2			
9	Silver Handicraft	3	5	1	-	-			
10	Houlage Rope	6	5	2	1	-			
11	Welding	3	5	5	5	-	Welding (Metal Work) (3)	6 months	10
12	Bike-cycle Repair	6	5	2	1	3		- 1 year	
13	Motorcycle Repair	6	10	8	1	6			
14	Wheelchair Repair	6	5	-	-	-			
15	Printing Service	6	5	4	1	4			
16	Carpenter	3	5	1	-	1			
17	Furniture	3	10	2	3	6			
18	Wood Carving	6	10	6	2	7			
19	Shoes Making	6	5	-	-	-			
20	Prosthetic & Ortho- tic Repair	6	5	3	-	4			
21	Knitting	3	5	2	5	4			
22	Knoidery	3	5	-	-	-			
23	Plaiting	3	15	11	12	13			
24	Car Repair	6	10	-	-	-			
25	Car Drive	3	10	-	-	-			
26	Cast Aluminium	3	5	-	-	-			
27	Design Interior	6	5	-	-	-			
28	Administration & Se- cretary	6	15	13	11	15	Computer (Character Work) (2)	6 months - 1 year	15
TOTAL			315	120	163	184			50

(合記)

40?  
RUNNING  
COST  
2~300  
RD  
600 x 400  
POWER  
ELECTRIC  
CAPACITY  
OK

20?

Computer  
(Character Work) (2)

184/19

THE BUDGET COMPONENT OF R.C. SOLD  
WITHIN 5 YEARS

NO	PEMBANGUNAN (DEVELOPMENT)	'90/'91	'91/'92	'92/'93	'93/'94	'94/'95				
1.	- TRANSPORT PEMILANGAN PACA (TRANSPORTATION) 50 ORANG (PERSON) Rp. 5.350.000,-  - PEMBERIAN PAKET STIMULANSI UNTUK BEKAS MELAYAN 50 ORANG Rp. 3.750.000,-	- PEMBERIAN PAKET UNTUK BEKAS KE- LAYAN PANTI (STIMULANSI) 75 ORANG, UNTUK Rp. 5.625.000,-  - TRANSPORT PEMIL- LANGAN PACA 75 ORANG Rp. 12.450.000,-	- TRANSPORT PEMULA- NGAN PACA DARI PANTI RIET SOLO KE- DERAH Masing-masing 75 ORANG DENGAN BIAYA Rp. 13.500.000,-  - RENOVASI (RENOVATION) GEDUNG 744 M <sup>2</sup> Rp. 104.160.000,-	- TRANSPORT PEMIL- LANGAN PACA DARI PRDCT SOLO KE - DERAH Masing-masing 75 ORANG DENGAN BIAYA Rp. 19.575.000,-	- PELATIHAN PEMANGKUAN KEMANDIRUAN Rp. 2.130.500,-  - PENINGKATAN KUALITAS PELAYANAN PETUGAS PANTI CACAT TUBUH Rp. 2.541.900,-  - PEMBERIAN PAKET STIMULANSI 125 PAKET Rp. 42.500.000,-  - TRANSPORT PEMILANGAN PACA 75 ORANG Rp. 46.875.000,-  - RENOVASI ERS RSOP 340 M <sup>2</sup> Rp. 51.000.000,-  - PENAMBAHAN DAYA LISTRIK (CAPACITY) 48 KW/ 1A.400. VA Rp. 4.720.000,-	Rp. 9.100.000,-  Rp. 249.728.000,-  Rp. 258.828.000,-	Rp. 18.075.000,-  Rp. 333.085.000,-  Rp. 351.160.000,-	Rp. 117.660.000,-  Rp. 380.602.000,-  Rp. 498.262.000,-	Rp. 15.525.000,-  Rp. 433.665.000,-  Rp. 449.190.000,-	Rp. 91.667.400,-  Rp. 468.952.000,-  Rp. 560.619.400,-
2.	RUTIN (ROUTINE)									
	JUMLAH:									

( $\frac{92}{259} \approx 0.03$ )

( $\frac{92}{561} \approx 0.16$ )

(YORC)

( '94, 10, 22  
DEPSOS W2

このため、ジョイントコミッティーやステアリングコミッティーのメンバーに対象者の入り口と出口に関係する機関のキーパーソンを入れることがぜひとも必要である。

ただし、これはあくまで短期間の、しかも会議や資料を中心とした表面的な調査からの推測である。時間をかけて、相談検査、ケース会議などに参加してじっくり見るとまた異なった側面がみられるのではないかとも思う。したがって、基礎調査報告書で指摘してあるような、一人の担当者がインタークからフォローアップまですべて面倒を見ることの可否については、その妥当性も含めて今の段階ではペンディングとして判断を留保させていただきたい。

職業評価については、サービス部の評価課が実施している集団学力テストの場面を見学することができたが、上述の3部のどの部門で何をやっているのか十分に調査することができなかった。わが国の障害者職業センターで行っている職業評価に相当するものはおそらく、準備部とサービス部にまたがって行われているものと考えられる。

評価課でもらった資料は、インドネシア語で書かれたものが多いため、詳細は良くわからないが、評価課においては、間接可動域テスト等による身体的側面の評価、基礎学力テスト、ウエイズ知能検査等による精神的側面の評価、作業検査による職業的側面の評価が行われているものと考えられる。(資料4-1~4-8)

職業評価については、①地方の社会事務所から文書連絡を受けて文書による入所選考を行っているようだが、相談結果をどうとりまとめて、ケース会議ではどのようなことを議論しているのか現場を見ていないので実態がよくわからない、②どのような障害者に対してどのようなテストバッテリーで検査をしているのかわからない、③ILOの援助で整備された職業適正検査については、日本語のマニュアルしかなかったので長い間活用されていなかった(最近、成岡専門家がインドネシア語のマニュアルを作成したとのこと)、④身体的側面を検査する握力計、肺活量計等の基本的な器具がない、⑤日常生活動作や社会生活能力をどのようにチェックしているのか不明、⑥障害者の指導台帳やカルテのようなものがあるのかどうか、⑦フォローアップの経過や結果はどのように記録・反省され、次のクライアントに生かされているか、等疑問に思うことは枚挙に暇がない。今回の調査は、このようなことを議論する時間がなかったこと、プロジェクトの大枠を検討することが優先したこと等から具体的な質問をすることはできなかった。このため、プロジェクトがスタートしたらまずこれらの現状を把握することが肝要と思われる。

PLACEMENT FOR THE PHYSICALLY HANDICAPPED PERSON

1984.4.16  
 情况  
 与 81. 招 281

YEAR	P L A C E M E N T			TOTAL
	SELF EMPLOYMENT	OPEN EMPLOYMENT	SHIELDED EMPLOYMENT	
1985/1986	119	20	-	139
1986/1987	85	67	-	152
1987/1988	148	25	-	173
1988 / 1989	96	29	1	126
1989 / 1990	91	39	11	141
1990 / 1991	122	19	3	144
1991 / 1992	46	27	23	96
1992 / 1993	93	15	15	123
1993 / 1994	121	21	15	158
TOTAL	921 (74%)	265 (21%)	68 (5%)	1,252.

PLACEMENT FOR THE PHYSICALLY HANDICAPPED PERSON AT THE -  
 FACTORIES / HOME INDUSTRY / SOCIAL FOUNDATION .

'94. 4. 16  
 搭客先一覽

NOMB.	FACTORIES / HOME INDUSTRY / SOCIAL FOUNDATION	TOTAL OF PHYSICALLY HANDICAP PERSON			
		MALE	FEMALE	TOTAL	
1.	PT. SUNBER JAYA GARMENT, PALUR, KRANJAR.	-	79.	79.	GARMENT. 7 AT NOW 17.
2.	PT. PANIGARA GLASS FACTORY, UNGARAN	7	17	24	GLASS -
3.	PT. ULLEN SENTALU, GEJAYAN, JOGJAKARTA	15	10	25	GARMENT
4.	PT. RUSPITASARI, JOMBON, KILATEN	8	7	15	GARMENT
5.	UKIR KAYU "PANULARAN", SURABAYA	7	-	7	
6.	BENGKEL LAS "ANTIK", BIBIS, SURABAYA	8	-	8	WELDING
7.	SWA PRASIDYA PURNA, CEMPAKA PUTIH, JARAKTA	-	14	14	COMPUTER
8.	BEAUTY SALON "DEWI" WONOREJO	5	7	10	BEAUTY SALON
9.	PT. JAMU JAGO, CABANG DAUNUNG SURABAYA	-	21	21	HERB -
10.	SANGGAR NILAM, BANGUNTAPAN, BANTUL, YOGYA	7	5	12	CONVECTION
11.	SURYA TUNGGAL BUSANA, SURABAYA	6	-	6	CONVECTION
12.	INDRATI CONVECTION, SURABAYA	-	5	5	CONVECTION
13.	PT. SEMAR MAS GARMENT, SURABAYA	1	6	7	GARMENT
14.	DARI DEWI CONVECTION SURABAYA	-	5	5	CONVECTION
15.	APINDO LINDONESIA INTERBENAWA ASSOCIATION) SURABAYA	-	1	1	ADMINISTRATIVE
16.	REBEKAYAN PENAMPONGAN PENDEKTA PARAPLEWA	37	2	39	rehabil
17.	DALAM PROSES MABUDI BIL	2	-	2	

Solo RC.  
 ↓  
 730  
 218  
 ↓  
 108



(SOLO  
5/11-7  
相談票)

GRUOP TERAPI

GRUOP KONSELING

COUNSELLING

MEMBER

I. ANGGOTA :

- |    |    |
|----|----|
| 1. | 5. |
| 2. | 6. |
| 3. | 7. |
| 4. | 8. |

II. DATA INDIVIDU :

Nama / No. Register :

U m u r : 44 :

Asal Daerah :

III. HARAPAN : 希望 期待

- 1.
- 2.
- 3.

IV. POTENSI :

1. Fisik : 身体
2. Psikologis : 心理
3. Sosial : 社会

V. PROBLEMATIKA : 问题点

VI. LANGKAH PEMEGAHAN :

VII. HASIL : 結果 结论

Surakarta, .....

Terapis / Konselor

Co. Terapis / Ass. Konselor

伊藤 由紀子

(SOLO  
身体技能評価)

技能 技能 身体  
ASSESSMENT KEMAMPUAN FISIK  
CACAT TUBUH

Nama : .....

Register : .....

Umur : .....

技能 技能 FOR IDL  
I. KEMAMPUAN FISIK UNTUK BEKERJA :

- 1. Berdiri 可 :
- 2. Berjalan 可 :
- 3. Jongkok 可 :
- 4. Memanjat 可 :
- 5. Mencabut 可 :
- 6. Mendorong 可 :
- 7. Membawa 可 :
- 8. Fungsi Jari 可 :
- 9. Fungsi Tangan 可 :
- 10. Mengangkat tangan ke bahu : 可
- 11. Mengangkat barang : 可

ADAPTASI KEMAMPUAN TERHADAP LINGKUNGAN KERJA  
II. ADAPTASI TERHADAP LINGKUNGAN KERJA :

- 1. Tempat kerja : 可
- 2. Tempat dingin : 可
- 3. Basah : 可
- 4. Lembat : 可
- 5. Licin : 可
- 6. Berdebu : 可
- 7. Gaduh : 可
- 8. Dalam ruangan : 可
- 9. Luar ruang : 可

III. HAL-HAL PENTING YANG ADA HUBUNGANNYA DENGAN REHABILITASI VOCATIONAL :

可 大切 可/可 可(可)

Surakarta, .....19...

198. 4. 14.  
17-11-79  
16. 11. 1980

DEPARTEMEN SOSIAL RI - PUSAT REHABILITASI PENDERITA CACAT TUBUH  
J A K A R T A

MINISTRY OF SOCIAL AFFAIRS RI - SOLO REHABILITATION CENTRE

LAPORAN ASSESMENT DITAMBAH TEMPAT KERJA

Workshop Report Assessment

Nama  
Name

No. Urut ( Serial No. )  
No. Register ( block No. )

Seksi  
Section

Tanggal pelaporan yang diperlukan  
Date report required

Bagian  
Part

Kepada  
To

Kepala Instruktur Assesment  
Chief Assesment Instruktur

1. Sudilah Saudara menyusun laporan dari Rehabilitasi yang tersebut diatas  
Will you please arrange for a report on the above named Rehabilitatee
2. Berikut ini ikhtisar dari formulir RC. 2 M.X  
The following is an extract from R.C. 2 MX
3. a. Keadaan dan usaha-usaha yang perlu dicegah  
Conditions and efforts to be avoided  
b. Dapat atau tidaknya kembali kepekerjaannya biasa  
Suitability for return to usual occupation
4. Pendapat saya tentang kegiatan latihan/bekerja, testing-testing yang bersifat khusus, d. s. d. adalah  
My recommendations about occupational activities, special tests, etc, are

Assesment

- 1.....
- 2.....
- 3.....

a.n. Seksi Pemilihan Pekerjaan

P E M I L I R A N P E K E R J A N

Tanggal  
Date

STANDAR PELAKSANAAN VOCATIONAL ASSESMEN

SIKAMATI 9/11

(SOLO 作業評価票)

Assesment	Kegiatan yang akan dilakukan. Kegiatan yang akan dilakukan 事項	Score						Keterangan 備考
		KS	K	S	C	B	BS	
Radio Elitro 3/11	1. Test hitungan 2. Menggambar Potting & stekere 3. Pengenalan alat-alat dan cara penggunaannya. 4. Bongkar pasang alat listrik 5. Latihan memvertane (mematri serta membuat solder ring). 6. Latihan montage meliputi: a. Montage bel listrik b. Montage sirine c. Montage lampu seri							
Percetakan 11/11	1. Menggambar later kast kecil dan besar. 2. Menghafalkan gambar later kast tersebut diatas. 3. Test mengasi petak-petak dengan huruf sesuai dengan koord tempat masing-masing huruf. 4. Pengenalan alat-alat dan cara penggunaannya. 5. Latihan menyusun huruf (menzeter). 6. Latihan mengohruf (koreksi susunan huruf). 7. Distribusi (mengembalikan huruf sehabis disusun/diast) ke tempatnya masing-masing.							
Ukar Kayu 11/11	1. Latihan dasar menggambar pola ukir. 2. Latihan mengasah pahat alat ukir. 3. Pengenalan alat dan cara penggunaannya. 4. Latihan praktek: a. Membuat gambar patron dengan							



(基礎力)   
 School   
 TINGKAT SEKOLAH DASAR

(Solo)   
 基礎力   
 数学、算術

SD. I Contoh :  $7 + 5 = 12$

S o a l :  $8 + 5 = \dots$        $20 + 5 = 3 \dots$   
 $9 + 2 = \dots$        $23 = 6 + 8 + \dots$   
 $6 + \dots = 15$        $27 = (6 + 9) + \dots$   
 $19 = \dots + 12$        $15 + (7 + \dots) = 25$   
 $5 + n = 15$        $7 = n + 5$   
 $n = \dots$        $n = \dots$

SD. II. Lingkariilah huruf jawaban yang benar !

- Contoh : 1 Puluhan + 7 satuan = a. 71  
 b. 78  
 c. 17
- S o a l : 1 puluhan + 9 satuan = a. 91  
 b. 10  
 c. 19
- 2 puluhan + 4 satuan = a. 24  
 b. 6  
 c. 42
- 3 puluhan + 0 satuan = a. 3  
 b. 30  
 c. 0

Lingkariilah huruf B jika benar dan S jika salah !

- ~~24~~ / 16      B - S      1 4  
 68 / 59      B - S      1 2 +  
 49 / 94      B - S      2 6      B - S
- 40 / 277  
 $\frac{22}{54} + \frac{13}{40}$       B-S      B-S

Isilah jawaban yang benar !

- $6 + 7 = \dots + 3$        $5 + n = 9$   
 $13 + 4 = 9 + \dots$        $n = \dots$   
 $17 + 6 + \dots$        $4 + 9 = n + 8$   
 $16 - 4 = 12 + \dots$        $n = \dots$

REH SURAKARPA.  
S1

WAIS RECOD FORM. (62/2/10.74) SOLA.

1. Nama : Tgl. lahir :  
 2. Jenis : Laki/Perempuan.  
 3. Pendidikan :  
 4. Alamat :  
 5. Tanggal test :

ワイス知能検査  
R銀用紙

Scaled Score	TABLE OF SCALED SCORE EQUIVALENTS											Scaled Score
	RAW SCORE											
	Information	Comprehension	Arithmetic	Similarities	Digit Span	Vocabulary	Digit Symbol	Picture Completion	Blok Design	Picture Arrangement	Object Assembly	
19	39	27-28		26	17	78-80	87-90					19
18	28	26		25		76-77	83-86	21		36	44	18
17	27	25	18	24		74-75	79-82		48	35	43	17
16	26	24	17	23	16	71-73	76-78	20	47	34	42	16
15	25	23	16	22	15	67-70	72-75		46	33	41	15
14	23-24	22	15	21	14	63-66	69-71	19	44-45	32	40	14
13	21-22	21	14	19-20		59-62	66-68	18	42-43	30-31	38-39	13
12	19-20	20	13	17-18	13	54-58	67-65	17	39-41	28-29	36-37	12
11	17-18	19	12	15-16	12	47-53	53-61	15-16	35-38	26-27	34-35	11
10	15-16	17-18	11	13-14	11	40-45	52-57	14	31-34	23-25	31-32	10
9	13-14	15-16	10	11-12	10	32-39	47-51	12-13	28-30	20-22	28-30	9
8	11-12	14	9	9-10		25-31	41-46	10-11	25-27	18-19	25-27	8
7	9-10	12-13	7-8	7-8	9	22-25	35-40	8-9	21-24	15-17	22-24	7
6	7-8	10-11	6	5-6	8	18-21	29-34	6-7	17-20	12-14	19-21	6
5	5-6	8-9	5	4		14-17	23-28	8	12-16	9-11	15-18	5
4	4	6-7	4	3	7	11-13	18-22	4	10-22	8	11-14	4
3	3	5	3	2		10	15-17	3	6-9	7	8-10	3
2	2	4	2	1	6	9	13-14	2	3-5	6	5-7	2
1	1	3	1		4-5	8	12	1	2	5	3-4	1
0	0	0-2	0	0	0-3	0-7	0-11	0	0-1	0-4	0-2	0

DIAGRAM WAIS:

SUMMARY		
TEST	Raw score	Scaled score
Information		20
Comprehension		
Arithmetic		
Similarities		
Digit Span		15
Vocabulary		
Verbal Scores		
Digit Symbol		10
Picture Completion		
Blok Design		
Picture Arrangement		5
Object Assembly		

50  
 50  
 基礎力学 I  
 Lembar Jawaban

" Test Dasar Pengortian Mekanik "

Contoh mengerjakan : A B  
 SOAL - SOAL

1.	A B	21.	A B C	41.	A B C D
2.	A B	22.	A B C	42.	A B C D
3.	A B	23.	A B C	43.	A B C D
4.	A B C	24.	A B C	44.	A B C D
5.	A B C	25.	A B C	45.	A B C
6.	A B C	26.	A B C	46.	A B C
7.	A B C	27.	A B C	47.	A B C
8.	A B	28.	A B C	48.	A B C
9.	A B	29.	A B C	49.	A B C
10.	A B	30.	A B C	50.	A B C
11.	A B	31.	A B C	51.	A B C
12.	A B C	32.	A B C	52.	A B C
13.	A B C	33.	A B C D	53.	A B C
14.	A B C	34.	A B C D	54.	A B C
15.	A B C	35.	A B C D	55.	1 2 3 4
16.	A B C	36.	2 3 4 5	56.	A B C
17.	A B C	37.	A B C D	57.	A B C
18.	A B C	38.	A B C D	58.	A B C
19.	A B C	39.	G H K F	59.	A B C
20.	A B	40.	A B C D	60.	A B C D

LEMBAR JAWABAN

" TEST S.P.H. "

Set. A	Se. B	Set. C	Set. D	Set. E
A 1	B 1	C 1	D 1	E 1
A 2	B 2	C 2	D 2	E 2
A 3	B 3	C 3	D 3	E 3
A 4	B 4	C 4	D 4	E 4
A 5	B 5	C 5	D 5	E 5
A 6	B 6	C 6	D 6	E 6
A 7	B 7	C 7	D 7	E 7
A 8	B 8	C 8	D 8	E 8
A 9	B 9	C 9	D 9	E 9
A 10	B 10	C 10	D 10	E 10
A 11	B 11	C 11	D 11	E 11
A 12	B 12	C 12	D 12	E 12

Total	Percentil	Grade



## 5. 日本の他の協力との関連

インドネシアの障害者リハビリテーションに対する日本の従来の協力は個別専門家および青年海外協力隊、研修生受け入れ、無償資金協力・円借款によるMRU、LBK、リハビリテーションセンター等の設備、機材供与など多岐にわたっている。（資料「セクター資料：社会福祉」参照）

今回の要請はこれまでの協力実績を基盤とした、インドネシアの総合的な障害者リハビリテーション施策に対する協力要請として位置づけられる。

## 6. 第3国、国際機関の協力概要

ソロRCは資料の通り過去においてILO/UNDPの専門家による協力・指導を得ている。（資料「セクター資料：社会福祉」参照）社会省との協議では第3国、国際機関の協力が日本の協力と重複しないようインドネシア側が努めることを確認した。

## 7. プロジェクトの目的と実施計画概要

### 7-1 名称

「スハルソ・スラカルタ国立身体障害者リハビリテーションセンター職業リハビリテーションシステム開発プロジェクト」

### 7-2 上位目標とプロジェクト目標

#### 7-2-1 上位目標

ソロ地域における障害者の職業（自営を含む）を通じた社会参加が促進される。

ただしこの上位目標は日本側案であり、今回調査ではインドネシア側との検討は行っていない。

#### 7-2-2 プロジェクト目標

本プロジェクトの目標は、スハルソ・スラカルタ国立身体障害者リハビリテーションセンター（以下「ソロRC」という）に、職業評価・指導・訓練で構成する新システムの職業リハビリテーションシステムを開発することである。

これは、ソロRCの現行社会リハビリテーション業務を改善するものではないが、既存業務の改善は間接的成果として期待される。

### 7-3 プロジェクトの活動と成果

#### 7-3-1 プロジェクトの活動

##### 1) 職業指導及び評価の技術移転

- ① 現行職能リハビリシステムの調査分析
- ② 新職業リハビリシステムの策定と施行
- ③ 新システムの評価と改善
- ④ 上記諸活動の評価

##### 2) 縫製及びコンピュータ科の職業訓練の技術移転

- ① 職業訓練計画の作成
- ② カリキュラムの作成と改善
- ③ 教材の作成
- ④ 訓練技法及び専門技術の移転
- ⑤ 訓練用機器の操作及び管理の技術移転
- ⑥ 技能評価法の技術移転

### 7-3-2 プロジェクトの成果

- 1) ソロRC職員の職業指導及び職業評価に関する資質の向上が図られ、職業リハビリシステムを運営することができるようになる。
- 2) 縫製及びコンピュータ科を担当するソロRC職員の資質の向上が図られる。

### 7-4 フェーズ2 構想

- (1) 国立職業訓練センター（チビノン）は、当初ソロRCの1施設として出発し、将来は、「Prof. Dr. Soeharso 国立職業訓練センター(以下「NVT C」という)」と名付ける独立施設となる。
- (2) NVT Cは、主機能として「障害者に一般労働市場で通用する知識と技能を付与する職業訓練の実施」であり、その他「リハビリ関係職員の研修」及び「障害者問題に関する調査及び開発」の3機能をもった施設である。

- ① 職業訓練人員は初年度100名、次年度150名、第3年次200名。訓練期間9～12ヶ月。
- ② 職員研修は、リハビリ関係の管理運営関係職員、職業訓練関係職員を中心とした知識・技能の研修。
- ③ 調査開発は、障害者に関するモニター、評価及び情報処理などで、リハビリ活動に関する職員、施設、方法及び財源問題の試行や適用等。

(3) 所要人員 : 154名

(4) 対象者 : 身体・視覚・聴覚障害者

(5) 設置場所 : ボゴール市にある州立精神障害者施設隣接地

敷地面積 : 50,000㎡のうち35,000㎡

建物床面積 : 10,500㎡

建物の構造 : コンクリートで1部ブロック

1～2階建

敷地の状況 : 現在は農耕作業用地で高低差が大。

(6) 予算規模 39,268百万ルピア (約19億6,340万円)

日本政府の援助(要請) : 37,200百万ルピア (約18億6,000万円)

    { 建築費 : 28,032 " (約14億0,160万円)

    { 実習機材 : 9,168 " (約4億5,840万円)

インドネシア政府負担 : 2,068百万ルピア (約1億0,340万円)

    { サイト整備 : 1,724 " (約8,620万円)

    { 基盤整備 : 275 " (約1,375万円)

    (事務所設備 : 69百万ルピア (約345万円)

(7) 年間運営概算額 1,756百万ルピア (約8,780万円)

職員給与費： 942百万ルピア

訓練教材費： 124

事務用品費： 48

宿泊施設費： 400

光熱水費： 150

維持管理費： 75

その他： 35

(8) 開発計画日程

- 1) 第6次国家開発計画の期末2年前、1997年に運営開始を希望している。それは、現大臣の在任中(1993年4月～1998年3月)にプロジェクトが終了し、1年程度運営されることが望ましいためである。
- 2) ソロRC技術協力を、1994年10月～1997年10月頃までの3年間で完了させる。
- 3) NVTCの建物建設を1995年10月～1997年の間で実施。
- 4) ソロRCの成果を1997年10月移転。
- 5) 1997年10月～11月頃NVTCの運営開始。

これにより、NVTCは第6次国家開発計画期間中に労働市場にふさわしい技能をもった障害者を送り出すことができる。

## 8. インドネシア側プロジェクト実施体制

### 8-1 ソロRC組織、事業概要

本報告書4章および基礎調査団報告書参照。

### 8-2 政府関係機関の支援体制

このプロジェクトは社会省社会リハビリテーション開発総局の所管である。スシロ総局長の直接の指揮によりインドネシア側の準備が進められている。担当部局は障害者リハビリテーション局、肢体不自由者リハビリテーション課である。今回ソロRCでの調査には本省から肢体不自由者リハビリテーション課スタルノ課長が同行し、協議結果は同課長からジャカルタのスシロ総局長に報告されていた。

ジャカルタでの社会省との協議には障害者リハビリテーション局の肢体不自由者リハビリテーション課以外の課からも責任者が同席し協議を傍聴していた。組織図(資料 図1、図2-3)参照。インドネシア側がチビノンNVT Cでのフェーズ2構想を肢体障害以外の障害も対象とする総合的ナショナルセンターと位置づけている証左と考えられる。(今回の調査団はフェーズ2の内容を協議するものではないことを前提の上で、フェーズ2での視聴覚障害者に対する職業リハビリ訓練への協力は困難であることを述べた。)

いずれにしても総局長のプロジェクトに対する熱心な取り組み姿勢がある間は省としての積極的対応が期待できる。

さらに障害者雇用促進に関係する省庁間連絡会議が年に数回開催されており、社会省が調整機関となっている。このため、とりわけ労働省との協力体制の形成も端緒はできていると言える。事業家協会(APINDO)を含めた「企業・社会における障害者勤労配置・活用に関する協力合意」も省庁間で締結されている。

### 8-3 プロジェクトの予算措置

ソロRCには1994年度開発予算として9,200万ルピアが計上されており、これは経常予算の16%にあたる。1990年度はこの比率は3%であり、BAPENASによりソロRCプロジェクトが承認されている結果と考えられる。(表4-3-2参照)

また、BAPENASはチビノンNVT C敷地整備費として1994年度予算に3億5千万ルピアを認めており、NVT C建設に係る無償資金協力についての日本側の正式回答を同年度内の可能な限り早い時期に得たい旨希望が述べられた。

### 8-4 建物・施設計画

施設計画については、施設改善のために用意しているインドネシア側の予算が十分でないことか

ら、コンピュータ室などの職業訓練用施設の方を職業指導・評価用施設に優先して経費を支出するのが妥当と考えられる。職業指導・評価については図8-4-1のQの建物が提示された。予算が許せば、①プライバシーが守れるよう配慮した窓付きの個別相談（兼）検査室の設置、②グループディスカッションができるミーティングルーム（兼）視聴覚室（職業ガイダンスルーム）の設置について検討すべきと考える。（図8-4-2）

縫製科実習場は、ソロRCより紳士服の実習場（図8-4-1、C1）を提示されたが、雨期の湿気が多いことから、婦人服の実習場に変更を要望した。

コンピュータ科実習場についてはソロRCからは、体育館（図8-4-1、R）を提示されたが、天井が高く空調設備の効率も悪い事等から変更を申し出て了解を得た。併せて空調設備の設置及び実習所の改修工事の予算化について、強く要望した。

#### 8-5 カウンターパート配置計画

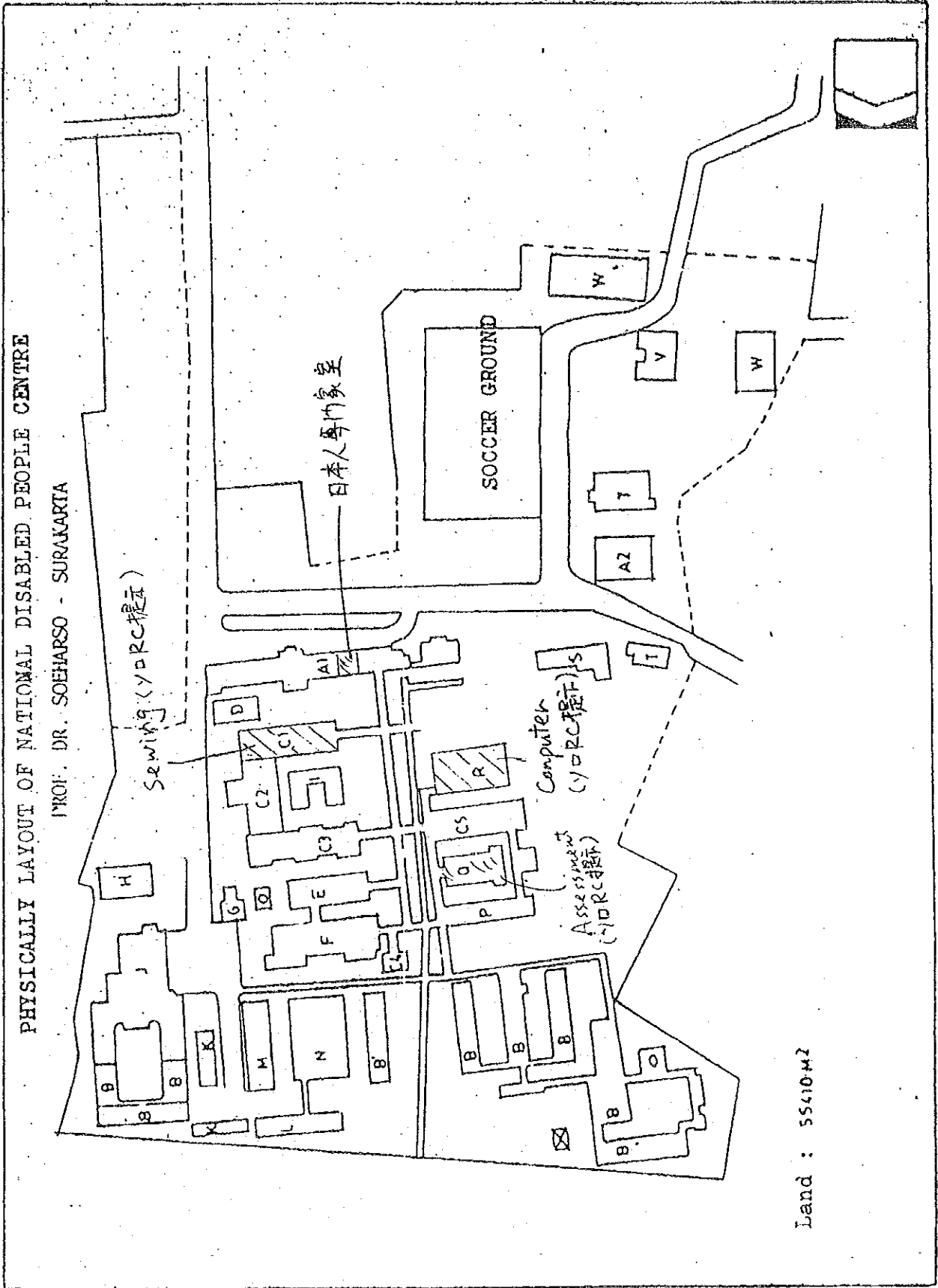
職業指導のカウンターパートについては、準備部及び援護部関係者が妥当と考えられることからミニッツの別添のとおりで概ね妥当と考えられる。ただし、職業評価については、サービス部の評価課がメインと考えられることから、これをカウンターパートに加える必要がある。今回の調査ではここまで十分に検討することができなかつたので、今後の検討課題としたい。

職業訓練分野についてはソロRCから縫製6名、コンピュータ5名の指導員名簿が提出されているが、学歴、経歴、資格等不明であり、現定員枠の中から選ばれている。縫製の指導員は現在技能訓練を担当している者として理解できるが、新規訓練科目であるコンピュータは現在全員が他の部署に所属しており、経験のない者が殆どである。現況のメンバーでスタートすれば、3年間での技術移転は困難であり、チビノンNVT Cへの移籍も難しい。

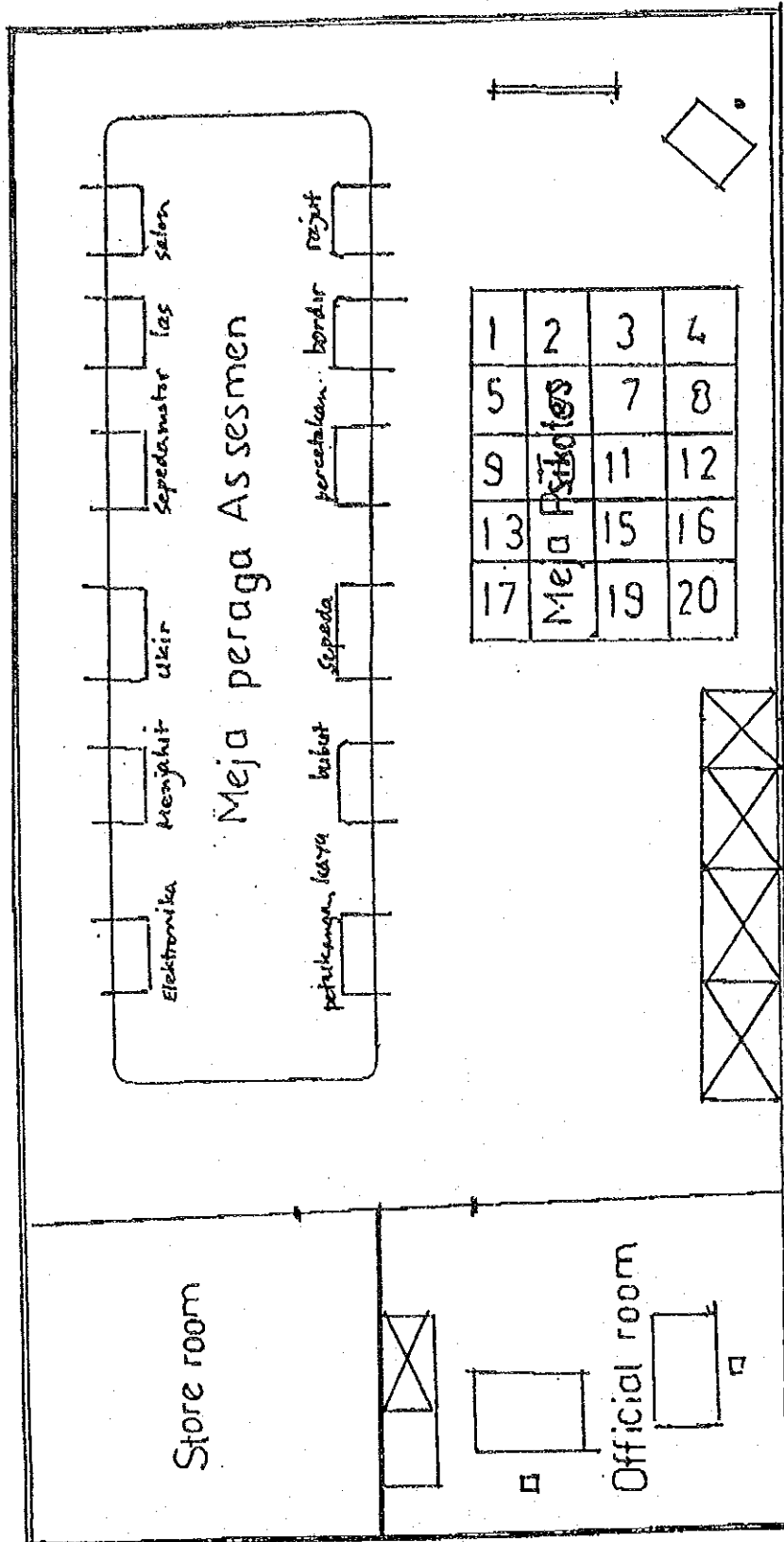
ソロRCとの協議において、専任のコンピュータの専門知識を持つカウンターパートの配置と、チビノンへの移籍を踏まえた上での人選であることを確認した。社会省との協議においても、労働省のコンピュータ関係の指導員及び関係学部の新規学卒者等の配属を強く要望した。また、指導員の研修が社会省では実施されていない事から、労働省の指導員研修を受けることができるよう省庁間の調整を要請した。社会省からは期待に沿う方向で善処するとの回答を得たが、今後とも両省が連絡を密にとる必要がある。

PHYSICALLY LAYOUT OF NATIONAL DISABLED PEOPLE CENTRE

PROF. DR. SOEHARSO - SURABAYA



Land : 55410M2



SOLO  
(Meja Psikotes)  
LIPAH

LAY OUT RUANG ASSESMEN  
Capacity 20 kalayan



## 9. プロジェクト協力の基本方針

### 9-1 協力の基本方針

本プロジェクトは、国立職業訓練センター（NVT C）に対する技術協力を視野に入れつつ、ソロRCに新しい職業リハビリシステムを開発することにより、障害者が労働市場にふさわしい技能を身につけ、経済・社会発展のための労働力として活躍することを目的とする。

協力の範囲は次のとおりとする。

- ① 縫製・コンピュータ科に関する職業リハビリシステムの開発
- ② 上記に関する研究開発及び職員研修
- ③ 労働省所管外の職業配置業務の改善
- ④ 開発した職業リハビリシステムはNVT Cへ移転するが、供与機材はソロRCの技能強化のため残置する。
- ⑤ 協力期間は、RD署名後3年間

### 9-2 協力の内容・範囲

- ① 職業訓練コースの開発
  - 1) 縫製科：定員20名の1年訓練（自動ミシン）
  - 2) コンピュータ科：定員20名の1年訓練（パソコン）
- ② 上記2訓練科に関する職業リハビリシステムの開発
- ③ 専門職員の研修について

インドネシアの職業指導・評価の領域で最先端のサービスを提供しているのは、ソロセンターである。同センターの主な機能は、①職業前訓練を含む職業リハビリテーションサービス、②心理・社会的リハビリテーションサービス、③一定の医学的リハビリテーションサービスを提供することであるが、最近では、専門職員の研修や調査研究も行っているとのことである。しかしながら、増加するリハビリテーションニーズに的確に対応するには、あらゆる面での改善が必要である。とりわけ専門職員の研修については、MRUチームによる研修を含めて、セミナーやワークショップの形で行っているが、質、量ともに不十分といわざるを得ない状況にあるとのこと、これが焦眉の急というインドネシア側の希望は十分に理解できる。

しかしながら、①職業リハビリテーションシステムの種を蒔く大切な時期にカウンターパートも日本側専門家もお互い素人の上に兼務で、「2兎を追うものは1兎をも得ず」になりかねないこと、②まずモデルとなる職業リハビリテーションシステムがあって、それを教えるのなら研修も可能だが、職業リハビリテーションシステムがない段階で何を教えるのか、③全インドネシアの職員を対象とする研修体系を作るとした場合、ソロセンターには人事情報等がないため不可能である、あえて始めるのであれば社会省内で検討すべきではないか、などの問題

がある。

このため、プロジェクトでは、モデルとしての新しい職業リハビリテーションシステムを開発することに専念することとし、専門職員の育成は、チビノンへ行く予定のカウンターパートへの技術移転にとどめるべきであろう。まずソロセンターで先駆的・モデル的サービスシステムを開発し、チビノンへ移転してからこれを教材として研修に活用するのが妥当と考えられる。

### 9-3 部門別計画

#### ① 職業指導・評価

本プロジェクトの目標をどこに置くか、これが職業指導・評価分野の最大の調査目的であった。ソロの「改善」なのか、新たに職業リハビリテーションシステムを「開発」するのかについて、基礎調査報告では「既存システムの改善」、PDM案(94/3/26)では「システムの確立」、PDM第2案(94/4/5)では「改善」と変化し、プロジェクト目標がやや不明確であった。

このため、インドネシアJICA事務所、大使館、成岡専門家、社会省、ソロセンターと再三にわたり議論を重ねた。その結果、既存の社会リハビリテーションシステムのほかに、新たに職業訓練を中核とする先駆的な職業リハビリテーションシステムを開発することを本プロジェクトの目標にすべきであるとの結論に至った。ソロは、日本の京都である。歴史も伝統もあるリハビリテーションのメッカである。職業リハビリテーションという新しい種を蒔くにふさわしい土壌がある。ここに種を蒔いて苗を育て、将来チビノンに移植するというのがインドネシア側の希望である。

また、これを達成するための具体的活動計画、方法については、PDM第2案のとおり社会省及びソロセンターに対して提案したところ概ね原案どおり了解を得ることができた。

$$\text{(既存の社会リハビリシステム)} + \frac{\text{(新たに職業リハビリシステムを開発)}}{\text{プロジェクト目標}}$$

#### ② 職業訓練

##### 1) 縫製科

訓練科名は縫製科(Machine Sewing)とする。ソロRCとの協議においては、既存の紳士服、婦人服の科名も挙げられたが、プロジェクトの目標が既存の訓練科の改善ではなく、新しい訓練科の開発とすることと、社会省の資料もMachine Sewingとあることから縫製科が適当である。

訓練目標は、縫製工場及び縫製関係の各種業種に就業できる技能者の養成を目標とし、訓練内容は、アパレル製品の基本的なデザイン、製図、裁断及び動力ミシンによる既製服の縫製技能を中心にした内容とする。職域も単能工としての縫製工だけでなく、パターンや裁断

部門にも就業できる技能の範囲とする。具体的なカリキュラムはソロRCより提示されているが、インドネシア語で書かれており、詳細については再度検討する必要がある。

訓練期間は1年程度とする。1日の訓練実施時間が午前中4時間と短く、技能の範囲も広く目標も高いことから、1年の期間は必要である。

定員は20名程度とする。社会省の資料は15名との提示であったが、ソロRCからは40名という数字が示された。機材、教材の調達、カウンターパートの配置等、40名の定員での実施は困難であり、最大限20名が適当と考える。

## 2) コンピュータ

コンピュータについては現在訓練科目として実施されていないが、インドネシア側の要請順位の高い職種である。近在の国立職業訓練校でも実施されていないため、日本が技術協力する意義は大きい。前述したソロ市内にあるアカデミー（専門校）の就職状況も良好であり、就職についてのニーズも高く、求人側にとっては絶対的な人材不足状況である。ソロRCにも直接国営電話会社から30名の求人引合いがあり、また実際にソロRC修了者がティアラRCのコンピュータ訓練を受け、全員が就職している。ソロRC入所者はほとんどが軽度な下肢障害者であり、コンピュータ科は中卒及び高卒程度の学歴を持つ障害者の訓練職種として有効である。

訓練内容はアプリケーションを主体にしたデータ入力を、1年程度の訓練期間で実施するのが適当と思われるが、ソロRCで提示された内容は、MS-DOS、英文ワープロ、表計算、データベース、COBOL、BASIC、PASCAL、C言語といった盛りだくさんの内容であり、訓練期間、定員も詳細については今後調整の必要がある。

## 9-4 専門家派遣計画

### ① 長期専門家の派遣 5名

チーフアドバイザー	1名
コーディネーター	1名
職業指導評価	1名
職業訓練（縫製）	1名
職業訓練（コンピュータ）	1名

### ② 短期専門家の派遣

プロジェクトの年次計画による必要数

## 9-5 研修員受け入れ計画

受け入れ人員は、毎年3名、3年間で9名、分野については協力内容、範囲の検討の後、決定する。

## 9-6 資機材供与計画

### ① 職業指導・評価

インドネシア側が作成した職業評価機器リスト（案）を見ると、①仕様がないので詳細がわからない、②数量の根拠が不明、③心理的・精神的側面の機器が大半で心理テストに偏ったりスタアアップになっており、例えば身体的側面を評価するための握力計、肺活量計、社会的側面を評価する社会生活能力テスト、ADLテスト、職業的側面を評価する職業適性検査等が入っていない、④作業評価を行うための縫製用機材とコンピュータ用機材も複数用意すべきと思われる、⑤職業指導の機材、例えばVTR、OHR、スライドプロジェクターは必要ないのか、等検討すべき課題がある。今回の調査では時間がとれず内容については議論をする事ができなかったもので、検討課題としたい。（表9-6-1）

SOLO  
 敬告学院(机器)  
 1/2

表9-6-1

ASSESSMENT EQUIPMENT

NO	URAIAN	MODEL	MERK	数量 JUMLAH
1.	TECHNICAL ABILITY			
1.1	Wais Test			4
1.2	Bulet Test			4
1.3	Wise Test			4
1.4	Rorschash Test			9
1.5	Tiki Test			20
1.6	Minesofa Test			20
1.7	Speach Field			20
1.8	Assembly C1			20
1.9	Mechanical Understanding			20
1.10	Assembly Object			20
1.11	SPM Test			20
1.12	Block kohst			2
1.13	Color test			10
2.	INDUSTRIAL ABILITY			
2.1	Color blind test			3
2.2	APM			20
2.3	Preference			20
2.4	Unjustifiability Copera Tool			20
2.5	EPPS			20
3.	ADMINISTRATION ABILITY			
3.1	Comprehention test A1			20
3.2	Calculation test A5			20
3.3	Quick & Careful D4			20
4	VOCATIONAL ABILITY			
	Vocational Assessment			2
5.	FURNITURE			
5.1	Filling Cabinet			6
5.2	Almari kaca			2
5.3	Meja tulis			50

NO	URAIAN	MODEL	MERK	JUMLAH
5.4	Size			2
5.5	Kursi Putar			50
5.6	Kursi Panjang			20
5.7	Electric white board			1
6	AC SPLIT NATIONAL 2 PK			2

② 職業訓練

1) 縫製

縫製工場で使用されている機材を中心に、定員に応じた必要数の機材を供与する。ソロR Cから下記の機材リストが提示されているが、インドネシア語で書かれていること、具体的な仕様が記入されていないこと、40名定員で要求していること等から、機材に関しては今後長期調査等の機会を利用して、詳細な調整が必要である。

インドネシア側要請

PENJAHITAN PUTRA/PUTRI

NO	URAIAN	TYPE/ MODEL	MERK	JUMLAH
1	Mesin Jahit (本縫ミシン)	15 JKCL	SINGER	40+5
2	Mesin Jahit	BASTEL NR.91	PFAFF	5
3	Mesin Jahit (特殊ミシン)	Untuk bebe-, rupa macam jahitan	JUKI	10
4	Dynamo mesin jahit		NATIONAL	40+5
5	Mesin Itik otomatis		SINGER	10
6	Mesin Obras	1301	SINGER	10
7	Mesin gunting potong (裁断機)			1
8	Gunting potong (アイロン)	Uk. 9	SINGER	40+5
9	POP/Orang-orangan (人形)	Patung		5
10	Setrika listrik lengkap dengan mejanya.		NATIONAL	5
11	Meja potong kain (裁断台)	Dari kayu jati dengan Uk. tinggi 90 cm, lebar 120 cm, panjang 250 cm		5
12	Kaca Cermin (鏡)	Ukuran besar		4
13	Kunci Pas			5*
14	Buku Pedoman potong memotong model jilid I s/d III (指導書)			5*
15	Papan Tulis /White Board (ホワイトボード)	Ukuran besar		5
16	Mesin Press	Sedang	SINGER	1
17	Meja peserta (机)			40
18	Kursi peserta (椅子)			40
19	Meja Instruktur (指導員机)			5
20	Kursi Instruktur (指導員椅)			5

\* = set

## 2) コンピュータ

ソロRCから下記の機材リストが提示されてるが、訓練内容、訓練期間、定員等の検討と併せて、機材の詳細（無停電装置の必要性、プリンターおよびプリンターバッファ等）について今後詰める必要がある。

### インドネシア側要請

コンピュータセット	20台	(指導員用 1台)
椅子	20	( 1 )
机	20	( 1 )
ホワイトボード	1	
キャビネット	7	
安定化電源 (スタビライザー)	1	
手洗い場	1	
エアコン	5	
アプリケーションソフト	25	



## 10. 協議経過とミニッツ

ミニッツ案はソロRCでの協議をとりまとめ合意したものである。このミニッツ案を社会省でさらに検討し最終案とした。これにはバペナスも加わった。

最終案をスシロ総局長が社会省大臣に説明し了解を得て署名した。署名時には労働省障害者雇用部長 Drs. Sugito Mu' ariefおよびインドネシア事業主協会Ermi Yani S.L.氏が同席した。

ミニッツ各項（番号はミニッツ附属文書の番号）

1. プロジェクトタイトルは、「社会リハビリシステムの改善」から「職業リハビリシステムの開発」に変更した。
2. プロジェクト目標では「職業リハビリシステムの開発」について、現行のシステムの改善ではないことの説明を加えたが、この協力が副産物として現行システムの改善に寄与することも追記する旨要請があったので加えた。

ここで、労働省所管の職業紹介を協力の範囲としないことを明記した。

7. 投入ではカウンターパート配置を日本人専門家一人に最低二人を要求した。協議ではその資質についても十分な人を配置するよう要請した。

予算面では訓練経費（ランニングコスト）を確保する旨要請した。またインドネシア側の施設改修責任も明記した。

8. プロジェクト管理体制については、最高責任者（National Project Director）、プロジェクト責任者（Project Director）に各々名称を付ける旨要請があったので了解した。

ステアリングコミティ、ジョイントコミティには関係省庁、労働省、アピンドを加えることで検討することとした。また、ステアリングコミティに社会省からもスタッフを加えるか検討することとした。

組織図はインドネシア側と協議を重ねながら作成した。日本人チームリーダーは社会省にも席を置き、総局長と常に協議できるよう要請した。これについてはスシロ総局長は了解した。これはチームリーダーがソロのみならず、フェーズ2も含めてアドバイスができることを考慮したためである。

- 10-1 プロジェクトの成果はチビノンでの活動に活用されることを記した。（協力の成果の持続性）
- 10-2, 4 インドネシア側から協力分野の追加、本邦研修生数増加の要請があったことを記録した。
- 10-3 職員訓練と研究開発はインドネシア側体制によって検討することとした。

## 11. PCM手法の利用

ソロRCにて活動内容、成果を協議するに先立ち、FASID作成の英文テキストを配布の上PCM手法の説明を行った。プロジェクト形成、実施、評価において同手法を利用することで了解を得た。但し、短時間の説明であったためPCM手法について十分な理解が得られていないと思われるので、今後共同作業を進めながら理解を深める必要がある。

社会省協議でも同上テキストを配布、概要説明を行った。今回調査団ではプロジェクト目標、成果と活動については合意し、ミニッツに記載したが、上位目標については時間がなく議論できなかった。第2フェーズ協力の取り組みが明確になった時点で日本側案を提示し協議する必要がある。指標その他のPDM項目についても今後の詳細検討が必要である。

## 12. 技術協力の妥当性と留意事項

### 12-1 技術協力の妥当性

第6次国家開発5ヵ年計画（1994/95年～1998/99年）の期間中、障害者対策としては、経済援助による職業訓練、企業におけるOJT（PBK）の管理、障害者の職業準備や有技能者の紹介等障害者に技能を身につけさせて自立生活をすると共に社会開発への参加を主目標としている。そのため、リハビリ関係職員（技術・運営）の研修、職業訓練用機器や施設設備の準備・獲得等を行動計画としている。

これに対して、リハビリセンターは、国立2施設（身体障害者及び精神障害者施設各1）、州立施設（PANT1）21、県立施設（SASANA）13、合計37施設である。しかし、これらの施設は、①職能訓練が中心であり、②古い訓練用機器設備を使用し、③縫製、ラジオ・テレビ修理、理・美容等比較的自営が容易な訓練科目が多い、等の理由で、近代的労働市場への参入が困難な状況である。

そのため、インドネシア政府は、リハビリ・センターの中心となり、①職業リハビリシステム、②関係職員の研修、③障害者関係の研究開発の3機能を具備したセンターを構想した。この具体的対象施設として、ソロRCが候補施設としてあがった。その最大の理由は、「障害者リハビリの発祥施設であり、記念碑的存在として関係者の心に刻まれており、全国的規模で対象者を募集する唯一の施設として運営されている」ことである。しかし、ソロRCは、用地・建物上の制約、周辺に大規模な労働力需要地がない、等の理由で新たなセンター設置場所としては不適當と考えられる。

そこで、国立職業リハビリセンターの設置について、次の手段で実施することとした。

- ① ソロRCに職業リハビリシステムを実施する。
- ② ソロRCの1施設として、チビノンに職業訓練センターを開設する。

職業リハビリセンターの開設は、障害者の自立と社会参加に対し、質・量両面の発展に大きな影響を及ぼすものと期待される。また、これに協力することは、JICAの「国別援助実施指針」の一つである「社会的安定を目指した社会福祉及び生活の安定」に関係したプロジェクトといえる。

第6次国家開発5ヵ年計画期間中に、職業リハビリセンターの運営を開始するためには、遅くとも今年中にソロRCに対する協力を開始する必要がある。

- ① ソロRCに対する業務日程としては

業務準備期間（現状分析：機器整備等）	6ヵ月
業務試行期間	1ヵ年
試行検討改善期間	3ヵ月
改善実施期間	1ヵ年
業務移行期間	3ヵ月
計	3ヵ年

が所要期間である。これを本年12月開始とすれば1997年11月が終期となる。

② ソロRCから国立職業訓練センター（チビノン）への業務移管期間は、新設施設であることを考慮すれば、6～9ヵ月の期間が必要と考えられる。

以上、協力の理由、時期両面から、本技術協力の実施は妥当なものと判断される。

## 12-2 留意事項

### 12-2-1 職員研修と研究開発業務

本技術協力プロジェクトでは、ソロRCにおける協力業務にのみ限定することとした。しかし、インドネシア政府より強い要請があり、インドネシア政府側に当該業務に関して十分な予算・職員を確保するのであれば、短期専門家に対応し得る旨を述べている。

本業務は国立職業訓練センター（チビノン）を考慮すれば、協力対象業務に加え、当該センター開設前に短期専門家の派遣及び日本でのカウンターパート研修などの対策を行うことが望ましい。

なお、当該業務に関しては、本技術協力プロジェクトの業務に支障のない範囲内で協力することが望ましい。

### 12-2-2 カウンターパートの研修人員

インドネシア政府側より、日本におけるカウンターパートの研修人員を、毎年4名（合計12名）にしてほしい旨の強い要請がなされた。これに対し調査団側より「非常に困難な問題であるが、慎重に検討する」旨を回答した。上記12-2-1の業務を協力対象業務に加える場合には、カウンターパート研修人員を増加すべきである。

なお、コンピュータ科のカウンターパート候補者の技能水準が低い実情に鑑み、当該研修人員の増員が望ましい。

### 12-2-3 職業訓練用機器

コンピュータ科の職業訓練用機器（パソコン及び関連器）は、産業界及び教育界において米国IBM社製の機器を使用している関係上、現地調達方式とすることが適切である。

協力期間終了後の縫製・コンピュータ科の訓練用機器はソロRCのリハビリ業務に活用することが、地域産業界及びソロRC自体、双方にとって好影響を与えるものとする。

## 13. ソロにおける専門家の生活環境

### 1 住宅

住宅については、成岡専門家の案内で①ソロセンターの南方約4 km、②西方約3 kmの2ヵ所を見学することができた。見学といっても車で周辺を通ったという程度なので外観だけであるが、①は、大きな1戸建ての住宅が多く、②は中規模の住宅が多かった。いずれもジャカルタに比べたら安く借りられるのではないかとのことである。

ジャカルタには、賃貸アパート、マンション等が多数あるが、ソロにはなく、住宅を借りる以外の方法としては、ホテルに間借りする方法があるが、これは不経済と思われる。

### 2 買い物

日用品、食品、電気製品等の買い物については、ソロ市の中心部に「マタハリ」というスーパーがあり、日常生活に必要な最低限のものは現地で購入できる。物価もジャカルタに比べると安いようである。

ただし、品数が少ないので、好みのものを選んで買いたい場合は、ジャカルタまで行く必要があると思われる。

### 3 病院

ソロ市内の地図にいくつか病院が掲載されていたので、休日にホテルの近くの病院を訪問してみた。コの字型に建てられた公民館のような病院で、外見だけでは判断できないが、治療を受けたいという気持ちはおきなかった。

ジャグジャカルタには、良い病院があるとのことである。ただし、ジョグジャカルタの専門家の子供が腕を骨折して診てもらったところ、誤診されたので、日本に帰して治療したという話もある。重傷の場合は、ジャカルタの病院が無難かと思われる。

### 4 学校

ソロ市には、日本人学校もインターナショナルもない。したがって、小学校、中学校は、ジョグジャカルタにあるインターナショナルに通うことになる。ジョグジャカルタに住んでいる人の話しでは、「小学校3年くらいまでだとインターナショナルでも大丈夫だが、それより大きくなると、かわいそう」とのこと。

このほか、ジャカルタに家族が住んで、ソロに単身赴任する方法が考えられる。

## 5 安全性

ジャカルタに住んでいる成岡専門家は住居に夜警をつけている。ソロは地方の小さな町でジャカルタに比べると安全なので、夜警をつける必要はないと思われる。

## 6 通信等

電話やFAXの設置については、成岡専門家の話しでは問題ないとのことであるが、インドネシアでは電話回線が不足している上にソロは地方都市なので、注意を要するかもしれない。

なお、日本語のテレビ放送等はない。

## 附 属 資 料





① ミニッツ



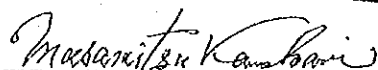
MINUTES OF DISCUSSIONS  
ON THE PRELIMINARY SURVEY  
ON THE PROJECT TYPE TECHNICAL COOPERATION (PTTC)  
FOR IMPROVEMENT OF SOCIAL REHABILITATION SERVICES  
FOR THE DISABLED IN R. C. PROF. DR. SOEHARSO, SURAKARTA

In response to the request of the Government of Indonesia, the Government of Japan decided to conduct Preliminary Survey on the Project Type Technical Cooperation for Improvement of Social Rehabilitation Services for the Disabled in R.C. Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (hereinafter referred to as "the Project"). The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") sent the survey team headed by Mr. Masamitsu KAWAKAMI, Managing Director, the Employment Information Center of Japan (hereinafter referred to as "the Team") to the Republic of Indonesia from 10 to 23 April 1994.

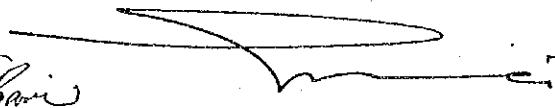
During its stay, the Team had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned (hereinafter referred to as "the Indonesian Side") with regard to overall conceptualization of the Project.

As a result of the discussions, both the Team and the Indonesian Side agreed to proceed further for realization of the Project based upon the matters referred to in the document attached herewith.

Jakarta, 22 April 1994



Mr. Masamitsu KAWAKAMI  
Leader, Japanese  
Preliminary Survey Team,  
Japan International  
Cooperation Agency,  
Japan



Dr. H. Susilo Supeno  
Director General for  
the Development of Social  
Rehabilitation,  
Ministry of Social Affairs,  
the Republic of Indonesia



## ATTACHED DOCUMENT

### 1. Project Title

The Team and the Indonesian side agreed on changing the Project Title from 'the Project for Improvement of Social Rehabilitation Services for the Disabled in R.C.Prof.Dr.Soeharso,Surakarta' to 'the Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof.Dr.Soeharso, Surakarta' (hereinafter referred to as "the Project").

### 2. Project Purpose

The Project aims to develop the vocational rehabilitation system for the physically disabled people at the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof.Dr.Soeharso, Surakarta (hereinafter referred to as "RC Solo").

The aim of the Project is to develop the vocational rehabilitation system, namely to develop the new system which consists of vocational assessment, vocational guidance and vocational training. It does not mean to improve the existing social rehabilitation activities in RC Solo, but it could indirectly improve the current activities in RC Solo.

The technical assistance provided by the Government of Japan does not cover the vocational placement activities over that the Ministry of Manpower has jurisdiction.

### 3. Duration of the Project Type Technical Cooperation (PTTC)

The duration of PTTC will be three (3) years, commencing from the designated date to be stipulated in the Record of Discussions (R/D) of the Project.

### 4. Project Site

The Project will be implemented at RC Solo.

5. Outputs of the Project

- 5-1. The ability of the staff of RC Solo to provide vocational guidance and to make vocational assessment will be developed, and the staff will be able to manage vocational rehabilitation system by themselves.
- 5-2. The ability of the staff of RC Solo vocational training courses will be developed.

6. Activities of the Project

6-1. Technical transfer in vocational guidance/assessment

- 6-1-1. Survey and analyze the current pre-vocational rehabilitation system
- 6-1-2. Make the new vocational rehabilitation system and try it out
- 6-1-3. Assess the new system and revise it
- 6-1-4. Evaluate the all activities mentioned above

6-2. Technical transfer in vocational training

- 6-2-1. Make vocational training plans
- 6-2-2. Make curricula and improve them
- 6-2-3. Make teaching materials
- 6-2-4. Transfer the training method and technical specialties
- 6-2-5. Transfer operation and maintenance methods of training machines
- 6-2-6. Transfer the skill evaluation method

## 7. Inputs into the Project

### 7-1. Inputs by the Indonesian Side

7-1-1. Assignment of the necessary number of suitably qualified counterpart personnel corresponding to each Japanese expert. The number of the counterpart personnel who are exclusively assigned to each Japanese expert is minimum two (2).

Qualification required for the Indonesian counterpart personnel is as follows:

- a) those who have enough technical knowledge and experience in each field to implement the Project with Japanese experts, and
- b) those who understand English.

7-1-2. Allocation of budget necessary for overall operational expenses, among others the material cost for vocational training courses and the maintenance cost for equipment.

7-1-3. Non-technical operational staff and building facilities necessary for the implementation of the Project.

The Indonesian side is responsible to renovate the facilities for vocational training courses and Japanese experts' rooms at the beginning of the Project.

### 7-2. Inputs by the Japanese Side

7-2-1. Dispatch of long term experts : Five (5) people

The fields are as follows: Chief advisor/Team Leader  
Coordinator  
Vocational Guidance/Assessment  
Vocational Training (Machine Sewing)  
Vocational Training (Computer)

7-2-2. Dispatch of Short term experts :

The number and field of the short term experts will be decided according to the annual plan of the Project.

7-2-3. Acceptance of counterpart trainees in Japan :

Three (3) counterpart personnel will be accepted every year.

7-2-4. Provision of equipment necessary for the technical transfer

7-2-5. Bearing a portion of local cost to be spent mainly for Japanese experts' activities

7-3. The number and field of Japanese experts and the number of Indonesian counterpart personnel are subject to changes.

8. Administration of the Project

8-1. Director General for the Development of Social Rehabilitation, Ministry of Social Affairs bears overall responsibility for the Project as a National Project Director.

8-2. Director of RC Solo is responsible for the administrative and managerial matters of the Project as a Project Director.

8-3. For the effective and successful implementation of the Project, Joint Committee and Steering Committee will be established with the functions and tentative compositions as shown in Annex 1 and 2, respectively.

8-4. Organization chart of the Project is shown in Annex 3.

9. Application of the Project Cycle Management (PCM) method for the Project management and evaluation

The PCM method was explained by the Japanese side and both sides agreed that the method would be applied to the Project formation as well as to the Project management and evaluation.

Project purpose, Outputs and Inputs of the Project Design Matrix (PDM) of the Project were agreed between both sides as a result of discussions.

Both sides confirmed that the PDM of the Project should be completed by joint work of both sides by the time when R/D of the Project would be concluded.

10. Others

10-1 Both sides agreed that the achievement of the Project activities should be continuously utilized in order to establish the advanced vocational rehabilitation system for the disabled people in Indonesia which was planned by the Government of Indonesia to be developed at the National Vocational Training Centre, Cibinong as a centre of centres of rehabilitation services.

10-2 The Indonesian side proposed that the technical cooperation provided by the Government of Japan would cover two other vocational training courses, namely the welding and metal work course and the electronic course.

The Japanese side explained that the Project activities for developing vocational training courses should concentrate on two subjects (machine sewing and computer) considering constraints of staff and budget. Machine sewing and computer courses were recommended in terms of the placement to open labour market.

10-3 The Team explained the possibility that the technical cooperation to the staff training and to the Research and Development (R&D) would be covered by dispatching short term experts when the Indonesian side allocated enough staff and budget to those activities.

10-4 The Indonesian side proposed that the number of counterpart trainees in Japan was increased from three(3) to four(4) every year. The Team replied that the proposal would be carefully considered although it was very difficult to accept the proposal.

10-5 The Team recommended that the Indonesian side should keep the good relationship with the Ministry of Manpower and the Indonesian Employers' Association (APINDO) in order to make the placement more successfully. The Indonesian side should study cooperation with vocational training centres in training instructors.

11. List of participants in the meetings from the Indonesian side and the Japanese side appears as Annex 4.



1. Function

The Joint Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises;

- 1) to formulate the Annual Work Plan of the Project, and
- 2) to review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievement.

2. Composition

- 1) Chairman: Director General for the Development of Social Rehabilitation,  
Ministry of Social Affairs

2) Members :

a) Indonesian Side

Director, National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled  
People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta.

Director, Directorate for the Rehabilitation for the Disabled,  
Ministry of Social Affairs

Head of Planning Bureau, Ministry of Social Affairs

Head of Bureau for Health and Nutrition, National Development  
Planning Agency (BAPPENAS)

Directors or Heads from organization of the Ministries concerned those  
are Ministry of Manpower, Ministry of Home Affairs, and  
Ministry of Education and Culture.

b) Japanese Side

Chief Advisor

Other Long-term Experts of the Project

Resident Representative of JICA Indonesia Office

Members of the Mission for the Project

Officials of Japanese Embassy (Observers)

Steering Committee (DRAFT)

1. Function

The Steering Committee will meet at least every other month;

- 1) to formulate the draft of Annual Work Plan of the Project, and
- 2) to review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements.

2. Composition

1) Chairman:

Director, National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled  
People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (RC Solo)

2) Members :

a) Indonesian Side

Director, Social Office for Surakarta area  
Director, Social Office for Central Java  
Director, Manpower Office for Surakarta area  
Director, Manpower Office for Central Java  
Chairman, APINDO Coordinator for Surakarta area  
Chairman, APINDO Coordinator for Central Java  
Head, General Division, RC Solo  
Head, Division for Preparation for Rehabilitation, RC Solo  
Head, Rehabilitation Services Division, RC Solo  
Head, Division for Placement and Protection, RC Solo  
Counterpart personnel of the Project

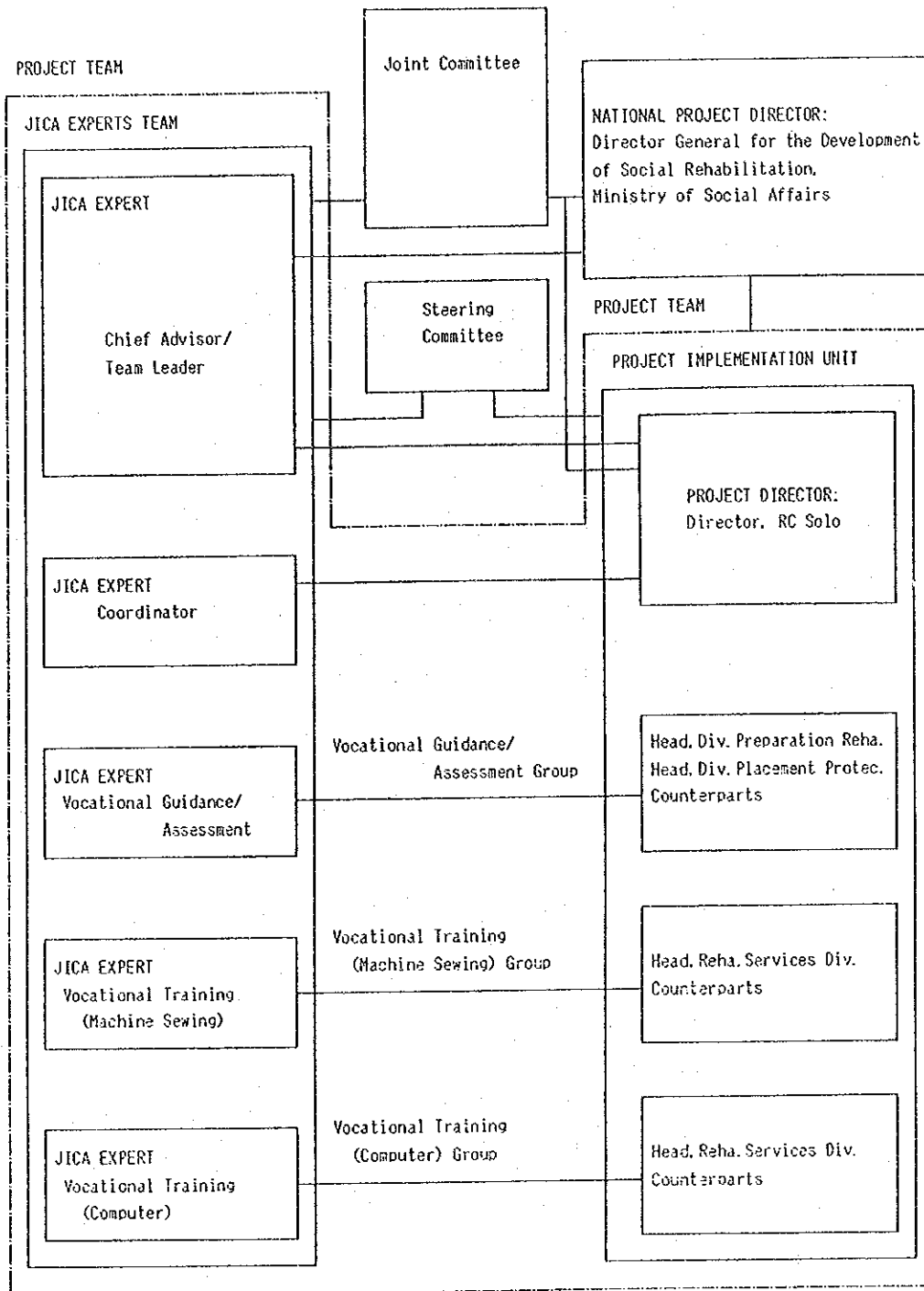
Chairman nominates the members according to the agenda of the committee.

Authorized nominated person can attend the committee.

b) Japanese Side

Chief Advisor  
Other Experts of the Project

Organization Chart of the Project



## Annex 4

## List of Participants

## A. Indonesian Side

Dr. H. Susilo Supeno	Director General for the Development of Social Rehabilitation, Ministry of Social Affairs
Drs. Sumardjo	Director of Rehabilitation for the Disabled
Drs. J. Soetarno	Dputy Director of Rehabilitation for Physically Disable People
Drs. A. Rivai Mas	Dputy Director of Rehabilitation for Delinquents and Drug Addicis
Dra. Sri Kastilah	Dputy Director of Rehabilitation for Deaf and Mute
Drs. Pieter Sihombing	Dputy Director of Planning, Secretariat of Ditjen
HLD Mooduto, BA.	Secretaris, Secretariat of Ditjen
Dra. Erniek S.	Dputy Director of Overseas Cooperation, Bureau for Planning, Secretariat General
Drs. Waslan Syech	Director, National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (RC Solo)
Drs. Siswojo	Senior Staff, RC Solo
Drs. R. M. Istichfar	Head, Rehabilitation Services Division, RC Solo
Drs. Warsito, PH	Head, Division for Placement and Protection, RC Solo
Brs. Radix Sukaanto	Head, General Division, RC Solo
Drs. Usnan Suryanto	Head, Division for Preparation for Rehabilitation, RC Solo
Bambang Tri Sugiyanto, BA	Public Relation Staff, Subdivision of Organization of Program and Reporting, RC Solo
Drs. Widodo	Director, Surakarta Regional Office, Ministry of Manpower
Dra. Nina S., MA	Head of Division, Bureau for Health and Nutrition, National Development Planning Agency (BAPPENAS)

## B. Japanese Side

Mr. Masanitsu Kawakani	Leader, The Japanese Preliminary Survey Team
Mr. Yukio Tomita	Member, ditto
Ms. Kiyoe Tanahashi	ditto
Mr. Fuminori Yanada	ditto
Mr. Shinji Yoshiura	ditto
Mr. Mamoru Naruoka	Expert, Ministry of Social Affairs
Mr. Satoru Watanabe	Staff, JICA Indonesia Office
Mr. Kiyotaka Higuchi (Observer)	First Secretary, Embassy of Japan

② 事前調査団調査結果表





調査項目	要 説 内 容 / 現 状	対 処 方 針	調 査 結 果
<p>⑤職業紹介</p> <p>⑥指導員の訓練</p> <p>⑦企業ニーズ調査</p> <p>⑧日本の協力実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会省を中心としたAPINDO (経営者団体) 労働省から構成される Placement Team による職業紹介体制があるが、雇用に関するびつくりは少ない</li> <li>・訓練修了者の74%が自営、15%が工場、7%が家内工業、5%が福祉施設</li> <li>・雇制歴上は職業訓練、職業修習は労働省の所管であり、障害者に限って実態上社会省が担当している</li> <li>・社会省には研修制度がない</li> <li>・現在ほとんど行われていない</li> <li>・専門家派遣 1987-1991</li> <li>・研修生奨励 1989-1991</li> <li>・無償資金援助 MRU 7ユニット (1991)</li> <li>・無償資金貸付 指導員養成用電子ブライラリー作成機材 (1991)</li> <li>・青年海外協力隊派遣 1990-1993</li> <li>・O E C F : リハ センター整備 (89-92)、民営リハセンター整備 (89-92)</li> <li>・MRU 整備 (89-92)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソロRCにおける職業訓練についての労働事務所の見解を聴取する</li> <li>* 指導員の訓練を進めるための労働事務所の協力が得られるか確認する</li> <li>* 職業訓練指導員を社会省は養成していないので、労働省の協力が得られるか確認する</li> <li>・従来の協力をベースに、組織 (Institution) レベルの協力を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働省とは良好な関係にある。また社会省とも関係が深い。地方レベルでの労働事務所の関係もできている。またイベントとも協力関係にある。(p.10-12.5)</li> <li>・労働省は経験をいせれば指導員訓練、指導員派遣は可能。</li> </ul>
<p>⑨他の協力機関の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ILO/ソロRCにて職業指導、職業訓練、就職斡旋 (1986-88)</li> <li>・ILO/UNDP: Community Based Rehabilitation, LBKセル設置、5箇所ORC改善、機材供与、職業指導、定額指導、及び研修 調査 (1979-82)</li> <li>・UNDP: 労務官CBRO/カト: RUP 職業者訓練、地域ワークワーカ: UB上-外供与、LBK改善、低価格機械製作、対企業支援 (1988-90)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関の協力を調整し保たれるようにわが方協力内容と協力するBHN分野協力を積極的なので特にその活動の状況に留意する (必要ならば世帯事務所訪問)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ILO、UNDPの協力を受けているが日本の協力が補完的なように留意する。(p.12-9)</li> </ul>



調査項目	要請内容 / 現状	対処方針 / [日本側案]	調査結果
<p>3. プロジェクトの目的および実施計画概要</p> <p>①プロジェクトの名称</p> <p>②プロジェクトの目的</p>	<p>・ ソロ身体障害者リハビリテーションセンター社会リハビリ改善プロジェクト</p> <p>・ ソロでは、各地方事務所を通じて紹介された経済的困難を伴った身体障害者に対し、障害を克服し、その結果に基づき能力向上訓練を実施している。障害を克服し、その結果に基づき能力向上訓練を実施している。障害を克服し、その結果に基づき能力向上訓練を実施している。障害を克服し、その結果に基づき能力向上訓練を実施している。</p>	<p>○要請内容を確認すると同時に「[日本側案]」とのすりあわせを行う</p> <p>・ ソロ身体障害者リハビリテーションセンター職業リハビリ改善プロジェクト</p> <p>・ (*イ側要請を随取する)</p> <p>・ 地方事務所等について、産業構造の変化に対応してきた様々な課題内容、労働市場の参入の困難について実地に確認する(4、②2)と協議</p>	<p>・ ソロ身体障害者リハビリテーションセンター職業リハビリ改善プロジェクト (p.12.1)</p> <p>・ ソロRCに職業指導・評価・訓練(製)製造システムを開発する。</p>
<p>③期待される効果</p>	<p>・ 職業訓練を受けた障害者の企業への就職が容易になる</p> <p>・ 職業訓練を受けた障害者の社会復帰が容易になる</p> <p>・ スタッブ訓練により職リハシステムの確立に寄与する</p>	<p>・ 同左、フェーズ1は身体障害者の職業訓練を通じ職リハシステムの形成をはかる</p> <p>・ 医療リハ、職業紹介は協力の範囲外とする</p>	<p>・ チビンではは身体障害者以外の障害者も対象としない</p> <p>・ 左記を説明し了解を得た。</p>
<p>④イ側実施組織体制</p>	<p>・ 主賛賞団：社会省社会リハビリテーション局</p> <p>・ 実施機関：ソロ身体障害者リハビリテーションセンター</p>	<p>・ 同左</p> <p>・ 同左、職リハシステムの確立はフェーズ2の範囲とする</p>	<p>・ フェーズ1はシステムの開発とした。</p> <p>・ ソロRCの既設訓練コースの改編、N VTCへの新システムの移行。(p.14.3)</p>
<p>⑤M/D署名者</p>	<p>・ 社会省社会リハビリテーション局長</p>	<p>・ 同左</p> <p>・ 関係組織の過去数年の予算を調査する</p>	<p>・ ソロに職リハシステムを一部移す (p.14.3)</p> <p>・ (これについては明確な回答は得られなかった)</p> <p>・ 同左</p>
<p>⑥関係機関の関連と支援体制</p>	<p>・ プロジマクトの総務責任者：社会省社会リハビリテーション局長</p> <p>・ 実施責任者：ソロ身体障害者リハビリテーションセンター所長</p>	<p>・ 同左</p> <p>・ 同左</p>	<p>・ 2. 参照</p>
<p>⑦プロジェクトの予算措置</p>	<p>・ その他関連組織：MRU, LBK, KUP</p> <p>・ 地方社会省労働リハビリセンター</p> <p>・ 地方障害者リハビリセンター</p> <p>・ 労働者、地方労働事務所、職業訓練センター</p>	<p>・ 本記組織の業務内容を調査し、プロジェクト実施における関与について協議する</p>	<p>・ 未定だがBAPPENASは近く決定する (p.15.7)</p> <p>・ イ側の既設した施設について変更、改修必要性等を協議した。</p>
<p>⑧建物、施設等利用計画</p>	<p>・ ソロ身体障害者リハビリテーションセンター内で実施</p>	<p>・ イ側予算計算内容および予算措置を調査する</p>	<p>・ フルタイムC/Pを日本人専門家一人に對し最少2名配置。</p>
<p>⑨カウンターパート配置計画</p>	<p>・ フルタイムC/P 不明</p>	<p>・ フルタイムC/Pの配置予定、資格、処遇等を調査</p>	<p>・ 同左、説明。</p>
<p>⑩フェーズ2構想</p>	<p>・ 医療リハ、社会リハ、職業リハを統合した総合リハビリサービス</p> <p>・ 職業訓練の促進</p> <p>・ 雇用機会拡大</p> <p>・ 地域社会参加の促進</p> <p>・ 全種類の障害者を対象としたCenter of Center設立</p>	<p>・ フェーズ2でも医療リハの協力は不可能であることを確認する</p> <p>・ イ側の運営体制整備を確立</p> <p>・ 視覚障害者、聴覚障害者を対象とした職リハシステムについては、要請内容を確認し、日本における同分野の現状を説明する</p>	<p>・ N VTCは統合的センターであり、視覚障害者も対象とする。しかしこれは別途協議したい。(p.16.10)</p>

調査項目	要 請 内 容 / 現 状	対 処 方 針 / [ 日 本 側 案 ]	調 査 結 果
4. 協力の基本計画		* [日本側案]を基本にイ側と協議する。またイ側不明点について調査する	
①協力の方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎調査において協力の意義が深いことが確認されており、事前調査では個々の協力内容について詳細に協議する</li> <li>フェーズ1は技術監督者の職リハシSTEMの開発を主目的とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記を説明、了解を得る。</li> </ul>
②協力の範囲と内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 国内での職業リハビリテーションに関する調査</li> <li>2) 職業訓練課程コース</li> <li>3) 職業訓練コース (リハビリテーション専門家、評価担当者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 調査はフェーズ2で行う</li> <li>2) 4料について指導員のレベル、訓練内容、労働市場の需要を調査し、改善点を検討する</li> <li>* 協力が分野を2料目に絞り込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R&amp;Dはフェーズ1の協力対象外とする</li> <li>構築、コンピュータの2料で合意。</li> </ul>
③協力期間	5年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 職業指導、職業評価職員訓練</li> <li>将来的な電子センサの職員訓練も含む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C/Pは原則としてNVTIC要員であることを確認。</li> <li>1994年中の協力開始を要請される。</li> <li>(P.17.2)</li> </ul>
④部門別協力計画 スケジュール [投入]		<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練スケジュール、訓練目標、対象、要件、人数について協議する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシア側に十分な計画がなかった。</li> </ul>
⑤専門家派遣計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 長期専門家 5名派遣 リハビリテーション 1名 (電子、コンピュータ、裁縫、溶接、旋盤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 長期専門家 5名派遣 - チューブアドバイザー - 業務指導員・指導 - 職業訓練 (旋盤) - 職業訓練 (電子、1科) - 職業訓練 (コンピュータ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 長期専門家 5名派遣 - チューブアドバイザー - 業務指導員・指導 - 職業訓練 (旋盤) - 職業訓練 (コンピュータ)</li> </ul>
⑥研修員受入計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 短期専門家 (不明)</li> <li>リハビリテーション専門家 15名</li> <li>職業評価 10名</li> <li>職業訓練 15名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 短期専門家 必要分、人数を協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 短期専門家については十分な協議に至らなかった</li> <li>年間3名程度で説明。4名の要請が出された。</li> </ul>
⑦機材供与計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力期間中機材供与要請額 (評価、調査機材、職業訓練用機材) 3億9千万ルピア (約2千万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間中機材供与要請額：内容を精査する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3億6千万ルピア (約1,800万円) 内容はインドネシア側のため持ち帰り検討とした。</li> </ul>
⑧ローカルコスト負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地業務費：不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ側の種別根拠を調査し日イの適正な負担を協議する 主な負担：現地業務費、セミナー開催費 現地語教科書作成費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAPPENASと協議して近く作成 (P.18.6)</li> </ul>
5. P.C.M手法の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ側に説明、了解を得る</li> <li>目的案図、P.D.M案を検討する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>P.C.M手法を説明し了解を得る。ただし、目的案図、P.D.M案検討までは行わなかった。</li> </ul>